



付録 A:ろう通訳者としての能力

内容

付録 A ろう通訳者としての 能力

このカリキュラムで使うために、『NCIEC ろう通訳能力』は Toward Effective Practice: Competencies of the Deaf Interpreter (NCIEC, 2010)を適応させて作成した。ここでの能力は、盲ろう者や盲ろうコミュニティも対象としている。それぞれの能力についての文の後にあるカッコ[Mx/Ux](編/章)は、それに当てはまる編や章を指す。

能力

『ろう通訳能力』には、一般的な水準以上の専門的な知識やスキルが書かれてあり、5つの分野に分類されている。-1.0 基礎力 2.0 言語、文化、コミュニケーション力 3.0 通訳利用者のニーズの把握 4.0 通訳実践力 5.0 専門的知識・スキルを向上する力

1.0 基礎力

ろう通訳者は、ろう通訳者のフォーカスグループ参加者(NCIEC, 2009a)によって詳細に語られてきたような、ろう者としての独特な成育経験をもってスタートする。ろう通訳者の形成的経験は下記のことも含む。

- 1.1 今日に至るまでの、ろう、盲ろうの家族や友人、学校のろうや盲ろうの仲間、コミュニティ内でのろうや盲ろう者たちとの関わりを通して、アメリカ手話やその他の手話、あるいはろう者が使う幅広いコミュニケーション手段に浸かっていること[M1,2]
- 1.2 早くから家族、友人、仲間のために通訳した経験があること[M2]
- 1.3 場面の把握、通訳者、さまざまなコミュニケーションスタイルについて個人的に苦労した経験があること[M1]
- 1.4 差別、抑圧、コミュニケーションや情報へのアクセスの欠如による不満、といった個人的な経験があること[M1,3]

2.0 言語、文化、コミュニケーション力

以下の言語、文化、コミュニケーション能力があるか。それらは通訳対象である通訳利用者との対話に不可欠なものである。

- 2.1 ASL や第二言語がネイティブまたはネイティブ並みの能力。韻律、アクセント、転換語(transition marker)、ディスコースマーカ、ターンテイキング(話者交代)を含む、ASL や第二言語による談話の語用論的・社会言語学的特質を自然に使いこなせる[M1]
- 2.2 通訳利用者の年齢、ジェンダー、人種や文化的背景、宗教、社会的・経済的地位、身体的・認知的状態、教育レベルと結びつく、一定の範囲内の ASL や第二言語のレジスター、ジャンル、バリエーションを巧みに柔軟的に使いこなせる[M1,2,3,5]
- 2.3 効果的なコミュニケーションを目指して文化的な行動、価値、慣習、談話の特徴やスタイルを認識し対応する能力[M1,2,6]
- 2.4 手書き、マイム、小道具なども含め、通訳利用者に複雑な概念を伝えるため代わりとなる視覚的コミュニケーション手段を使える創造性や柔軟性[M2,3,5,6]
- 2.5 一般の書類や説明書(例えば、入院申込書、同意書、求職志望書、保険、請求書)のサイト(テキスト)トランスレーションを行うのに必要な英語の読み書き能力[M5]
- 2.6 通訳利用者に関わる様々な人たちに、明確にかつ専門的に、以下の概念を効果的に説明し話し合える能力
 - 2.6.1 通訳利用者のニーズを把握するプロセスと、特定の通訳や介入の手段を使う理論的根拠[M2,3]
 - 2.6.2 通訳チームの役割、機能、プロセス[M6]
 - 2.6.3 状況によって逐次通訳、または同時通訳を選択する論理的根拠[M5]
 - 2.6.4 通訳者の言語処理と通訳利用者の言語制限によっては、その通訳利用者に関わる人たちがその通訳を利用できる範囲に限られること[M2,4,5]

3.0 通訳利用者のニーズを把握する力

ろう通訳者は、通訳利用者に適した通訳方法やコミュニケーション方略を決めるために必要な以下の能力を有する:

- 3.1 通訳方法やコミュニケーション介入に影響を与える可能性が高い利用者の教育、認知、生理学、社会言語学的特性及びコミュニケーションニーズを確認できる。[M3,6]



付録 A ろう通訳者としての能力



付録 A

ろう通訳者としての能力

- 3.2 ろうや盲ろうの利用者の言語使用を確認し、目標言語またはコミュニケーション形式を決定することができる(例えば、バイリンガル、モノリンガル、セミリンガル、どのような言語に慣れているか、障害となるコミュニケーション体系、国際手話、独特の文化や個人特有のジェスチャーまたはホームサインの使用、触手話の使用あるいは接近してコミュニケーションする方法)[M2,3,6]
- 3.3 ろうや盲ろうの利用者にしばしば見受けられる主なギャップを確認することができ(例えば、情報、経験、教育、視覚、プロトコル、認知、記憶、文化関連など)、確認したギャップをその場のやりとりあるいは場面全体に関連付けて考えることができる。確認した情報をもとに目標言語でのコミュニケーション方略を決め、ろうや盲ろうの利用者の経験や言語的構造と一致させ、状況のプロトコルに合わせるができる。[M3,5,6]
- 3.4 ろうや盲ろうのコミュニティにおける抑圧の歴史と意味の理解を、通訳場面における参加者間の力関係の分析に適用する。そうすることで、その力関係における利用者の立場がどのように通訳上の決定や方略に影響を与えるか見極めることができる[M2,3,4]

4.0 通訳実践力

対象となる全ての通訳利用者に適した、意味の通じる訳出を共同構築する際に、ろう通訳者は、関与、分析、表出、観察、意思決定といったスキルを示すことができる:

- 4.1 最も正確で意味あるコミュニケーションを実現するために、ろうや盲ろうの利用者も通訳プロセスに関わってもらう[M5,6]
- 4.2 情報を引き出し、意味を明確にするため、情報を誘出する方略を使う(例えば、促す、探る、質問する、先述のコメントを参照する、言い換える、ろうや盲ろうの利用者のメッセージを通訳が理解しているか確認するなど)[M3,5,6]
- 4.3 文の構造、代名詞による参照、代理の役割、出来事の報告、描写、時制の使用や空間への参照などといった領域における表出への障害に拘わらず、暗に含まれている意味を推測し、意味を明確にするための文脈上の方略を使う[M5,6]
- 4.4 ろうや盲ろう利用者が談話に関連した情報に集中できるようにする方略(例えば、先述の注意や質問を繰り返す、先述の議論に結びつける、注意や質問のポイントを明らかにする)を使う[M3,5,6]
- 4.5 ろうや盲ろう利用者の経験や言語の構造と一致する目標言語やコミュニケーション形式を目指した表出方略(下記も含む)
 - 4.5.1 文法的な形式を相手に合わせる(例えば、時系列、空間表出、時間参照、代名詞の参照、RS、回答範囲を狭めた質問形式、レジスターの調整)[M3,5,6]

- 4.5.2 情報の流れの操作(例えば、ペーシング(間を置く)、内容の解説)
[M5,6]
- 4.5.3 4.5.3 文脈の情報を提供する(例えば、視覚的に得た情報を描写する、
話題に上がっている様々な考えを関連付ける話し合われた概念とつな
げる、付け加える、再構成、類推、例示、定義、文化的情報、状況のプ
ロトコルの説明)[M2,5,6]
- 4.5.4 利用者のフィードバックをモニターし、必要な場合は代替りのコミュニケ
ーションモードや他の介入方法を定める(例えば、触手話または近づけ
てコミュニケーションする、国際手話、ろうや盲ろう利用者が好む手話に
合わせる、独特の文化や特異なジェスチャー、ホームサイン、小道具の
使用、手描き、マイム、など)[M2,3,5,6]
- 4.5.5 上記を達成するため、必要に応じて、様々な関係者から詳細の情報に
関する説明をもとめる[M5,6]
- 4.6 通訳利用関係者が従属的な面を示したり、刷り込まれた表現を使ったりして、言
語学的なやりとりにおいて意図された結果を表していないことに気づくことがで
きる[M4,5,6]
- 4.7 通訳が効果的かどうか、いつ作業を止めて代替りの手段を使用するのがよい
かを定めるために、対話を注意して見る能力がある[M4,5,6]
- 4.8 通訳者として、アドボケート(代弁者)としての役割を確認、認識、区別し、また、
専門家とろうや盲ろう者コミュニティの間に適切に一線を引く[M4,6]
- 4.9 聴通訳者とチームを組む時、以下のように協働について効果的に交渉できる能
力
 - 4.9.1 通訳協働作業を進め、共に意味を確かめ、明確にするための情報を集
め、チーム内での情報の流れを操作し、通訳利用者全員にとって完全
で正確な通訳を目指すために相互観察をきちんと行う[M6]
 - 4.9.2 定型の、あるいは複雑な通訳状況について、必要に応じて方法をどう
変えて適応するかについて、言語使用、テクニック、方略を前もってチ
ームの通訳者たちと合意する[M6]
 - 4.9.3 逐次通訳と同時通訳の使い分けについて、または必要に応じて同時か
ら逐次、あるいは逐次から同時に切り替える場合などについて、前もっ
てチーム通訳者たちと合意しておく[M6]



付録 A ろう通訳者として の能力



付録 A

ろう通訳者としての能力

- 4.9.4 チーム内でコミュニケーションの失敗をどう切り抜けるか、簡単なチームの打ち合わせを要請する、使用言語、テクニック、方法を変えて用いる、必要ならばプロとしてのやり方でチームのメンバーを交替する[M6]
- 4.9.5 チーム作業において、想定できる力関係について認識し効果的に話し合う(例えば、役割、文化の相違、差別、抑圧、オーディズムについて認識する)[M6]
- 4.9.6 複数のチームで通訳する時、いつ、どのように交代するかの計画を立てておく。そうすることによって、それぞれのチームは、それまで使ってきた言語的概念を利用しさらに発展させるができるので、交代を経ても、すべての通訳利用者が言語学的に明確なまま保つことができる。[M6]

5.0 専門的知識・スキルを向上する力

ろう通訳という職業の継続的な発展と向上のために、ろう通訳者は以下の能力を有することを示す。

- 4.1 同僚、仲間、その他専門家との関わりの中で、専門職としての力を伸ばせる活動続ける[M1,2,3,4,5,6]
- 4.2 専門的学習を行う、ろう通訳者のコミュニティに積極的に参加するようにする(例えば、集会、ワークショップ、会議、オンライン会議)[M1,2,3,4,5,6]
- 4.3 通訳、言語学、文化研究(カルチュラル・スタディーズ)、研究の最新の傾向に遅れないようにする[M1,2,3,4,5,6]
- 4.4 広範囲にわたる様々な学術分野(例えば、医学、精神保健、法学)やろう通訳者が仕事で関わる分野の知識を持ち続け、最新の傾向に遅れないようにする[M1,2,3,4,5,6]
- 4.5 教育、通訳に関する学問を常に履修する[M1]

参考資料

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2010). Toward Effective Practice: Competencies of the Deaf Interpreter.

http://www.interpretereducation.org/wp-content/uploads/2011/04/DC_Final_final.pdf より引用。

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2009a). Analysis of Deaf Interpreter focus group discussions conducted April-July 2007.

http://diinstitute.org/wp-content/uploads/2010/03/DI_FocusGroups_FinalReport.pdf より引用。

各編ごとの能力

	第1編	第2編	第3編	第4編	第5編	第6編
1.0 基礎力						
今日に至るまでの、ろう、盲ろうの家族や友人、学校のろうや盲ろうの仲間、コミュニティ内でのろうや盲ろう者たちとの関わりを通して、アメリカ手話やその他の手話、あるいはろう者が使う幅広いコミュニケーション手段に浸かっていること	○		○			
早くから家族、友人、仲間のために通訳した経験があること	○					
場面の把握、通訳者、さまざまなコミュニケーションスタイルについて個人的に苦労した経験があること	○					
差別、抑圧、コミュニケーションや情報へのアクセスの欠如による不満、といった個人的な経験があること	○		○			
2.0 言語、文化、コミュニケーション力						
2.1 ASL や第二言語がネイティブまたはネイティブ並みの能力。韻律、アクセント、転換語 (transition marker)、ディスコースマーカー、ターンテイキング (話者交代) を含む、ASL や第二言語による談話の語用論的社会的言語学的特質を自然に使いこなせる	○					
2.2 通訳利用者の年齢、ジェンダー、人種や文化的背景、宗教、社会的経済的地位、身体的認知的状态、教育レベルと結びつく、一定の範囲内の ASL や第二言語のレジスター、ジャンル、パリエーションを巧みに柔軟的に使いこなせる	○	○	○		○	



付録 A ろう通訳者としての能力



付録 A

ろう通訳者としての能力

2.0 言語、文化、コミュニケーション力	第1編	第2編	第3編	第4編	第5編	第6編
2.3 効果的なコミュニケーションを目指して文化的な行動、価値、慣習、談話の特徴やスタイルを認識し対応する能力	○	○				○
2.4 手書き、マイム、小道具なども含め、通訳利用者に複雑な概念を伝えるため代わりとなる視覚的コミュニケーション手段を伝える創造性や柔軟性		○	○		○	○
2.5 一般の書類や説明書(例えば、入院申込書、同意書、求職志望書、保険、請求書)のサイト(テキスト)トランスレーションを行うのに必要な英語の読み書き能力					○	
2.6 通訳利用者に関わる様々な人たちに、明確にかつ専門的に、以下の概念を効果的に説明し話し合える能力						
2.6.1 通訳利用者のニーズを把握するプロセスと、特定の通訳や介入の手段を使う 理論的根拠		○	○			
2.6.2 通訳チームの役割、機能、プロセス						○
2.6.3 状況によって逐次通訳、または同時通訳を選択する論理的根拠					○	
2.6.4 通訳者の言語処理と通訳利用者の言語制限によっては、その通訳利用者に関わる人たちがその通訳を利用できる範囲が限られること		○		○	○	

	第1編	第2編	第3編	第4編	第5編	第6編
3.0 通訳利用者のニーズを把握する力						
3.1 通訳方法やコミュニケーション介入に影響を与える可能性が高い利用者の教育、認知、生理学、社会言語学的特性及びコミュニケーションニーズを確認できる。			○			○
3.2 ろうや盲ろうの利用者の言語使用を確認し、目標言語またはコミュニケーション形式を決定することができる(例えば、バイリンガル、モノリンガル、セミリンガル、どういう言語に慣れているか、障害となるコミュニケーション体系、国際手話、独特の文化や個人特有のジェスチャーまたはホームサインの使用、触手話の使用あるいは接近してコミュニケーションする方法)		○	○			○
3.3 ろうや盲ろうの利用者にはしばしば見受けられる主なギャップを確認することができる(例えば、情報、経歴、教育、視覚、プロトコル、認知、記憶、文化関連など)、確認したギャップをその場のやりとりあるいは場面全体に関連付けて考えることができる。確認した情報をもとに目標言語でのコミュニケーション方略を決め、ろうや盲ろうの利用者の経験や言語的構造と一致させ、状況のプロトコルに合わせることができる。			○		○	○
3.4 ろうや盲ろうのコミュニティにおける抑圧の歴史と意味の理解を、通訳場面における参加者間の力関係の分析に適用する。そうすることで、その力関係における利用者の立場がどのように通訳上の決定や方略に影響を与えるか見極めることができる		○	○	○		
4.0 通訳実践力						
4.1 最も正確で意味あるコミュニケーションを実現するために、ろうや盲ろうの利用者も通訳プロセスに関わってもらう					○	○



付録 A
ろう通訳者としての能力



付録 A

ろう通訳者としての能力

	第1編	第2編	第3編	第4編	第5編	第6編
4.0 通訳実践力						
4.2 情報を引き出し、意味を明確にするため、情報を誘出する方略を使う(例えば、促す、探る、質問する、先述のコメントを参照する、言い換える、ろうや盲ろうの利用者のメッセージを通訳が理解しているか確認するなど)			○		○	○
4.3 文の構造、代名詞による参照、代理の役割、出来事の報告、描写、時制の使用や空間への参照などといった領域における表出への障害に拘わらず、暗に含まれている意味を推測し、意味を明確にするための文脈上の方略を使う					○	○
4.4 ろうや盲ろう利用者が談話に関連した情報に集中できるようにする方略(例えば、先述の注意や質問を繰り返す、先述の議論に結びつける、注意や質問のポイントを明らかにする)を使う			○		○	○
4.5 ろうや盲ろう利用者の経験や言語の構造と一致する目標言語やコミュニケーション形式を指摘した表出方略						
4.5.1 文法的な形式を相手に合わせる(例えば、時系列、空間表出、時間参照、代名詞の参照、RS、回答範囲を狭めた質問形式、レジスターの調整)			○		○	○
4.5.2 情報の流れの操作(例えば、ページング(間を置く)、内容の解説)					○	○



付録 A
ろう通訳者としての
能力

第1編	第2編	第3編	第4編	第5編	第6編
<p>4.0 通訳実践力</p> <p>4.5.3 文脈の情報を提供する(例えば、視覚的に得た情報を描写する、話題に上がっている様々な考えを関連付ける話し合われた概念とつなげる、付け加える、再構成、類推、例示、定義、文化的情報、状況のプロトコルの説明)</p> <p>4.5.4 利用者のフィードバックをモニターし、必要な場合は代わりのコミュニケーションモードや他の介入方法を定める(例えば、触手話または近づけてコミュニケーションする、国際手話、ろうや盲ろう利用者が好む手話に合わせる、独特の文化や特異なジェスチャー、ホームサイン、小道具の使用、手描き、マイム、など)</p> <p>4.5.5 上記を達成するため、必要に応じて、様々な関係者から詳細の情報に関する説明をもとめる</p> <p>4.6 通訳利用関係者が従属的な面を示したり、刷り込まれた表現を使ったりして、言語学的なやりとりにおいて意図された結果を表していないことに気づくことができる</p> <p>4.7 通訳が効果的かどうか、いつ作業を止めて代わりの手段を使用するのがよいかを決めるために、対話を注意して見る能力がある</p> <p>4.8 通訳者として、アドボケート(代弁者)としての役割を確認、認識、区別し、また、専門家とろうや盲ろう者コミュニティの間に適切に一線を引く</p>	○	○		○	○
	○	○		○	○
				○	○
				○	○
			○	○	○
			○	○	○
			○	○	○



付録 A
ろう通訳者としての
の能力

4.0 通訳実践力	第1編	第2編	第3編	第4編	第5編	第6編
4.9 聴通訳者とチームを組む時、以下のように協働について効果的に交 渉できる能力						
4.9.1 通訳協働作業を進め、共に意味を確かめ、明確にするための情 報を集め、チーム内での情報の流れを操作し、通訳利用者全員にとって 完全で正確な通訳を目指すために相互観察をきちんと行う						○
4.9.2 定型の、あるいは複雑な通訳状況について、必要に応じて方法を どう変えて適応するかについて、言語使用、テクニク、方略を前もって チームの通訳者たちと合意する						○
4.9.3 逐次通訳と同時通訳の使い分けについて、または必要に応じて同 時から逐次、あるいは逐次から同時に切り替える場合などについて、前 もってチーム通訳者たちと合意しておく						○
4.9.4 チーム内でコミュニケーションの失敗をどう切り抜けるか、簡単な チームの打ち合わせを要請する、使用言語、テクニク、方法を変えて 用いる、必要ならばプロとしてのやり方でチームのメンバーを交替する						○
4.9.5 チーム作業において、想定できる力関係について認識し効果的に話 し合う（例えば、役割、文化の相違、差別、抑圧、オーディズムについて認 識する）						○

第1編	第2編	第3編	第4編	第5編	第6編
4.0 通訳実践力					○
4.9.6 複数のチームで通訳する時、いつ、どのように交代するかを計画を立てておく。そうすることによって、それぞれのチームは、それまで使ってきた言語的概念を利用しさらに発展させることができるので、交代を経ても、すべての通訳利用者が言語学的に明確なまま保つことができる。					
5.0 専門的知識・スキルを向上する力					第6編
5.1 同僚、仲間、その他専門家との関わりの中で、専門職としての力を伸ばせる活動続ける	○	○	○	○	○
5.2 専門的学習を行う、ろう通訳者のコミュニティに積極的に参加するようにする(例えば、集会、ワークショップ、会議、オンライン会議)	○	○	○	○	○
5.3 通訳、言語学、文化研究(カルチュラル・スタディーズ)、研究の最新の傾向に遅れないようにする	○	○	○	○	○
5.4 広範囲にわたる様々な学術分野(例えば、医学、精神保健、法学)やろう通訳者が仕事で関わる分野の知識を持ち続け、最新の傾向に遅れないようにする	○	○	○	○	○
5.5 教育、通訳に関する学問を常に履修する	○				



付録 A
ろう通訳者としての能力



付録 B: ワークシート

内容



付録 B ワークシート

第 2 編

組織の比較分析ワークシート

事例 1 ワークシート

事例 2 ワークシート

事例 3 ワークシート

事例 4 ワークシート

事例 5 ワークシート

立場の優劣確認 (Privilege Walk)(2 部)

第 3 編

行動レベルワークシート

コミュニティ観察ワークシート

ろう者へのインタビューワークシート

第 5 編

レジスターワークシート

第 6 編

事前打ち合わせの分析ワークシート

通訳利用者との打ち合わせの分析ワークシート



組織の比較ワークシート

第2編 第1章 演習2

この演習のねらいは、ろう、盲ろう、通訳コミュニティを対象とする組織が有色人種に提供するサービスや支援について、比較、分析することである。

方法:下記のリストから3つの団体を選ぶ。各団体の活動についてまとめて記入する。次に、それぞれのメンバーたちにどのようなサービスや活動が定められているか、記入する。

組織	Webサイト	任務
Council de Manos	http://www.councildemanos.org/	
Mano a Mano	http://www.manoamano-unidos.org	
National Alliance of Black Interpreters	http://www.naobidc.org/	
National Asian Deaf Congress	http://www.nadcusa.org/	
National Association of the Deaf	http://www.nad.org	
National Black Deaf Advocates	http://www.nbda.org	
Registry of Interpreters for the Deaf	http://www.rid.org	
Sacred Circle	http://www.deafnative.com/	

方法:自分が選んだ3つの組織について以下の質問に答える。書記でもASLでもよい。ASLの場合は、録画したものをリンクとして貼り付けること。

1. その組織はなぜどのように設立されたか?
2. 各組織がメンバーに行なっているサービスはどのようなものか?
3. その組織のいずれかは行事の際にろう通訳の利用を受け入れているか? そうならば、どのように?
4. あなたは、これらの組織からの通訳任命にどうアプローチするか?
5. 一つの組織でろう者全てのニーズに対応できるか? それはなぜか?

組織の始まり	サービスと支援	主要活動



事例 1 ワークシート

第 2 編 第 2 章 演習 2

事例 1: 聴の両親を持つろうの成人

年齢: 14

性別: 男性

人種: コーカサス系白人

社会経済的状況: 中流の上

どのグループに属していると思うか: なし

ろうコミュニティの経験: 学校での交流のみ

家族とのコミュニケーション: 親は英語対応手話を使う

使用言語: 仲間とは手指英語

教育歴: 地元の一般学校に通級

その他特記事項: 1 日に 2 時間自習室で過ごす

配慮事項と課題:

上記の理由:

Adapted from DeafPlus: A Multicultural Perspective (Christensen, 2000)



事例 2 ワークシート

第 2 編 第 2 章 演習 2

事例 2: 最近メキシコより移住

年齢: 成人

性別: 女性

人種: メキシコ人

社会経済的状況: 下層より上

どこのグループに属しているか: ホアレスにあるろうコミュニティの一員, 地元のろうコミュニティとは接点なし

ろうコミュニティの経験: ヨーロッパ系アメリカ人のろうコミュニティ

家族とのコミュニケーション: 夫(ろう)と妹(聴)とメキシコ手話とスペイン語

使用言語: 最低限のスペイン語(読み);メキシコ手話

教育歴: ホアレス市の口話学校に 2 年間

その他特記事項: 米墨国境近くの貧困ヒスパニック居住地に住む

配慮すべき事項と課題:

上記の理由:

Adapted from DeafPlus: A Multicultural Perspective (Christensen, 2000)



事例 3 ワークシート

第 2 編 第 2 章 演習 2

事例 3:南部の田舎出身のアフリカ系アメリカ人

年齢:成人

性別:男性

人種:アフリカ系アメリカ人/黒人

社会経済的状況:中流の上

どのグループに属しているか:主に家族

ろうコミュニティの経験:他の黒人ろうと知り合い始めたばかり

家族のコミュニケーション:両親、兄弟と手話(ASLらしきもの)

使用言語:標準 ASL と 黒人 ASL

教育歴:家から 2 時間のところにあるろう学校に通学

その他特記事項:NBDA(全米黒人ろう協会)に入会したところ

配慮すべき事項と課題:

上記の理由:

Adapted from DeafPlus: A Multicultural Perspective (Chris



事例 4 ワークシート

第 2 編 第 2 章 演習 2

事例 4: ネイティブ・アメリカン

年齢: 成人

性別: 女性

人種: ネイティブアメリカン/インディアン

社会経済的状況: 下層

どのグループに属しているか: インディアン部族

ろうコミュニティの経験: 限定; 特別保留地に居住

家族とのコミュニケーション: ナバホ語とホームサイン(ろうの兄弟と)

使用言語: ジェスチャー、ホームサイン

教育歴: 居住地プログラム、インディアン学校

その他特記事項: 特別保留地での文化行事や式典に積極的に参加

配慮すべき事項と課題:

上記の理由:

Adapted from DeafPlus: A Multicultural Perspective (Christensen, 2000)



事例 5 ワークシート

第2編 第2章 演習2

事例 2: アジア系アメリカ人二世

年齢: 成人

性別: 男性

人種: アジア系アメリカ人

社会経済的状況: 中流

どのグループに属していると思うか: なし

ろうコミュニティの経験: 地元の学校

家族とのコミュニケーション: 書記英語, 母と兄は北京語, 聴の妹は手話(ASL 学習中)

使用言語: 第一言語は北京語(4歳の時失聴), ASL をその後に習得, 優先言語は英語

教育歴: 5歳の時ろう学校へ

その他特記事項: 高い学力, かなり勤勉, 社交的でなく娯楽がない

配慮すべき事項や課題:

上記の理由:

Adapted from DeafPlus: A Multicultural Perspective (Christensen, 2000)



立場の優劣確認ワークシート

第2編 第3章 演習5(2ページのうち1ページ目)

方法:この活動の目的は、人種、ジェンダー、性的指向、宗教、能力などにより得られた権利を探ることである。安全な環境と基本的な行動原理を作ることが大切である。グループに馴染んでいないのであれば、紹介することや雰囲気をはぐすことに時間をかける。活動と話し合いが終わった後では、活動で何をしたかは一般的に語ってもよいが、活動の特定の内容や詳細、参加者の反応については語ってはいけないことをあらかじめ説明しておく。全員が輪になって(あるいは列になって)立ち両脇に人がいるようにして手をつなぐよう説明する。グループに向けて一連のことは伝える。各自それぞれのことばに対し前進、後退、その場にとどまる形で対応する。皆が前へまたは後ろへ動くと、できるだけ離れないよう手をつないだままで、必要なら腕を伸ばす。しかし、結果的には手をつないだままにするのはできなくなり、そこでつながりは切れてバラバラになる。これに参加している人たちに、この作業は自分への挑戦であると説明する。それでも、皆が安全だと思えることが重要である。そのため、参加者はもし何かのことばに対して前にまたは後ろに進むのが不愉快であれば、そのまま動かないはずである。この作業中話す人は講師のみである。講師は参加者に輪にまたは一列になって(教室の広さによる)手をつなぐように言う。そこで講師はそれぞれの言葉をASLで伝え、数秒待ってから、各自は前進、後退、あるいはその場にとどまる。

指示文:

1. あなたが店に入るとその店員があなたの人種のせいではか万引きしようとするのではないかと疑うことがあるという人は、後ろに一步下がる。
2. 私立の学校に通っていた人は一步前に進む。
3. 小学校や中学校で特定の民族である先祖の歴史や文化を学んだことのある人は、一步前に進む。
4. 参加者自身あるいはそして両親も、田舎出身という人は、一步下がる。
5. 子どもの頃、両親に美術館や博物館に連れて行ってもらったことがある人は、一步前に進む。
6. 成長期に、自分の独特なアイデンティティ(宗教、ジェンダー、性的指向、階級、人種)のロールモデルに否定的だった人は、一步後ろに下がる。
7. 自分の宗教の主要な祝日に学校が休みだったという人は、一步前に進む。
8. 一番近い家族の者が医師、法律家、あるいは「専門家」である人は、一步前に進む。
9. もしあなたか、あなたの先祖が、これまで人種、肌の色、または民族ゆえに醜い、あるいは劣っていると教わったことがあるとしたら、一步後ろに下がる。
10. テレビをつける、または新聞を開いて自分の人種や性的指向を広く示している人たちの目にするのができるなら、一步前に進む。
11. 友人または家族の一員ということで、時給のいい仕事を得られた人は皆一步前に進む。
12. 人種、民族集団、宗教、性的指向を理由に、誰かに自分たちのことが嫌いだと言われたことがない人は皆一步前に進む。
13. 夜一人で帰宅するのが怖いと思ったことがあれば、一步後ろに下がる。
14. 子どもの頃家族がいつも食べ物を買う余裕がなかったことがあるという人は、一步後ろに下がる。



立場の優劣確認ワークシート

第2編 第3章 演習5(2ページのうち2ページ目)

15. 家族に車を買ってもらった人は一歩前に進む。
16. パートナーと手をつないで街を歩くのは怖くないという人は、一歩前に進む。
17. 子ども向けや成人向けの本が両方ともある本棚のある家に育った人は皆一歩前に進む。
18. 自分の髪用の製品や、カットしてくれる人がなかなか見つからないという人は、一歩後ろに下がる。
19. テレビ番組や映画で同じ人種や民族の人がヒーローやヒロインになっているのをいつも見ている人は一歩前に進む。
20. 両親が大卒である人は一歩前に進む。
21. 両親に、あなたは美しい、賢い、夢を実現させる力があると言われた人は二歩前に進む。
22. 子どもの時、親が「人はあなたをこう呼ぶのよ、あなたをこのように扱うのよ、あなたはこのように対応すべきなのよ」と、我が子がこれから経験することを承知の上で、それは家族にとってもコミュニティにとっても重大なことであるため、わざわざ時間をとって説明せざるを得なかったということがあったという人は一歩後ろに下がる。
23. 18歳になる前にメキシコ以外の米国外で休暇を過ごした人は一歩前に進む。
24. 新聞を毎日読む家に育った人は、一歩前に進む。
25. 同僚や同級生の一人が、あなたのところではクリスマスを祝わないことを忘れたか、知らなかったために、休暇で帰省するときメリークリスマスの挨拶をしたことがあったら、一歩後ろに下がる。
26. 不安なく使える公共トイレをすぐに見つけて使える人は、一歩前に進む。
27. 白人男性が1ドル稼ぐ時白人女性は72セントしか稼げない。アフリカ系アメリカ人の女性は65セントだけ、ヒスパニックの女性は57セントだけである。白人男性は皆前に二歩進む。

評価:

グループで輪になって(座って、または立って)この活動を進める。以下も含めグループに質問する。:

この活動に参加してどう思ったか?

1. 何を見たか?
2. 何に気づいたか?
3. 前に進むとどう思ったか?
4. 後ろに下がるとどう思ったか?
5. 他人が前に進んだため自分が後ろにいることをどう感じたか?
6. 自分が前に進み、他人が後ろにいるとどう感じたか?
7. 前にいるとどう感じたか?
8. 後ろにいるとどう感じたか?
9. 他人の手を離さなくてはならなくなったときどう思ったか?
10. この活動のポイントは何か?
11. ここで学んだことをどう活かせるか?



行動レベルワークシート

第3編 第1章 演習2

方法:下記について当てはまる行動レベルを記入する

P - 個人的

C - 文化的

U - 一般的

- _____ 1. あだ名がある
- _____ 2. ケーキにろうそくを立てて誕生日を祝う
- _____ 3. 赤いバラが好き
- _____ 4. メールしながら歩く
- _____ 5. スパイシーな食べ物は好きでない
- _____ 6. 交替で物事をする
- _____ 7. フォーク、スプーン、ナイフで食べる
- _____ 8. 抜けた歯を枕の下に置く「歯の妖精」
- _____ 9. 食事の最後にサラダを食べる
- _____ 10. 結婚式に白い服を着た客がいると動揺する
- _____ 11. フードのある服を着る
- _____ 12. 復活祭を祝う
- _____ 13. 窓の開いている寝室で寝る
- _____ 14. ビデオ通話でおしゃべりする
- _____ 15. 相手に会えなくて寂しいという気持ちを示すために黄色い花をあげる
- _____ 16. 大晦日に麺を食べる
- _____ 17. 本を読む代わりにサッカーをする

(Adapted from Mindess, 2004)

解答 - このコピーを配布する場合はこの箇所は隠すこと

1-C, 2-C, 3-P, 4-P, 5-P, 6-C, 7-C, 8-C, 9-C, 10-C, 11-P, 12-C, 13-P, 14-C, 15-C, 16-C, 17-P



コミュニティ観察ワークシート

第3編 第2章 演習2 (2 ページのうち 1 ページ目)

方法：この活動の目的は、通訳利用者の言語やコミュニケーションのバリエーション、文化的アイデンティティ、その他関連の要素を観察し理解することであり、それらは通訳やコミュニケーション介入に関する決定に影響する。オプション：コミュニティのイベントに参加する。例えば、ろう、盲ろうクラブや社交イベント、ろう、盲ろう団体の集会または会議。オプション2：講師が選んだ、コミュニティイベント特集の参考になるビデオを見る。この二つのオプションのうち一つをもとにして、イベント観察について以下の質問に答える。次に、インタビュー対象として3名を選ぶ(方法は次のページ)。

1. このイベントはどういうものか？
2. 参加者とともに楽しんだか？
3. 一番多く使われた言語やコミュニケーションモードは何か？
4. 一番目立ったバイカルチュラルアイデンティティは何か？

上記の質問からイベントや参加者について説明せよ。:

この活動の次は次のページへ



ろう者へのインタビューワークシート

第3編 第2章 演習2 (2ページのうち2ページ目)

方法:コミュニティイベントに個人的に参加した人のみがこのワークシートに記入すること。3人のろうまたは盲ろう者と別々に数分カジュアルな会話をしてから、自由に見たことを書き留める。多様性を忘れなければ、通訳利用者の言語やコミュニケーション、文化的アイデンティティ、生き立ち、その他の要素を確認できる。この活動は、それらが通訳やコミュニケーション介入の決定に影響するというを理解するのも役立つ。

インタビューされる人1

性別 (男性 ・ 女性) 年齢: _____ (幼児 ・ 10代 ・ 青年 ・ 成人 ・ 年配)

文化的アイデンティティ: (バランスの取れたバイカルチュラル ・ ろう中心のバイカルチュラル ・ 聴中心のバイカルチュラル文化的に分離 ・ 文化的に孤立・文化的に周縁にいる ・ 文化に支配されている

言語: (ASL モノリンガル ・ ASL-中心のバイリンガル ・ 英語中心のバイリンガル ・ 英語モノリンガル ・ バランスの取れたバイリンガル ・ セミリンガルまたは無言語者 ・ その他 [記述] _____

インタビューされる人2

性別 (男性 ・ 女性) 年齢: _____ (幼児 ・ 10代 ・ 青年 ・ 成人 ・ 年配)

文化的アイデンティティ: (バランスの取れたバイカルチュラル ・ ろう中心のバイカルチュラル ・ 聴中心のバイカルチュラル文化的に分離 ・ 文化的に孤立・文化的に周縁にいる ・ 文化に支配されている

言語: (ASL モノリンガル ・ ASL-中心のバイリンガル ・ 英語中心のバイリンガル ・ 英語モノリンガル ・ バランスの取れたバイリンガル ・ セミリンガルまたは無言語者 ・ その他 [記述] _____

インタビューされる人3

性別 (男性 ・ 女性) 年齢: _____ (幼児 ・ 10代 ・ 青年 ・ 成人 ・ 年配)

文化的アイデンティティ: (バランスの取れたバイカルチュラル ・ ろう中心のバイカルチュラル ・ 聴中心のバイカルチュラル文化的に分離 ・ 文化的に孤立・文化的に周縁にいる ・ 文化に支配されている

言語: (ASL モノリンガル ・ ASL-中心のバイリンガル ・ 英語中心のバイリンガル ・ 英語モノリンガル ・ バランスの取れたバイリンガル ・ セミリンガルまたは無言語者 ・ その他 [記述] _____

上のインタビューに基づいて、ろう通訳者の実践において、利用者を観察し、評価するとこの利点を説明せよ。



レジスターワークシート

第5編 第4章 演習4

方法: 下記のシナリオそれぞれに当てはまるレジスターを書き入れよ。

FR - フローズン Frozen

FO - フォーマル Formal

CO - コンサルタント的

INF - 非公式

INT - 内輪

- _____ 1. 高校の教室
- _____ 2. ろうの結婚カウンセラーとの面談
- _____ 3. 野球試合での米国国歌
- _____ 4. 卒業式でのろうの基調講演者
- _____ 5. 地元の理事会会議での夕食休憩
- _____ 6. ろうクラブで言い合っている盲ろうのカップル
- _____ 7. 就職面接
- _____ 8. 学校の朝礼での忠誠の誓い
- _____ 9. ワークショップ中のパネルディスカッション
- _____ 10. 進行中の法廷

解答 - このコピーを配布する場合はこの箇所は隠すこと

1-CO, 2-CO, 3-FR, 4-FO, 5-INF, 6-INT, 7-FO, 8-FR, 9-CO, 10-FO



事前打ち合わせ分析ワークシート

第6編 第3章 演習1

方法: Pre-Conference Discussion, in Deaf Interpreting: Team Strategies (Cogen, Forestal, Hills & Hollrah, 2006)を見て、チーム内のやりとりを分析する。このワークシートを使って、スキル、テクニック、方略が話し合われたか否か(機会を逃したか)を確認して、チームで合意したことを書く。

事前打ち合わせの内容	解決済または 議論済	議論されず	合意内容
ろうの通訳利用者の言語について			
聴の通訳利用者の言語について			
媒介とチーム作業のコーディネート			
コミュニケーションモダリティとモード			
同時通訳と逐次通訳の連続体			
チームの言語			
場面、目的、表出、パワーダイナミクス、聴衆の分析			
意味と通訳の共同構築へのアプローチ			
ディスコースの枠組み			
言語、文化的適応			
蓄積しそれを表出する			
リレーショナルコンテキスト			
合図			
追加または省略させる			
相互に観察しサポートする (スキーマ、ディスコースの構成、通訳)			
介入			
任務中のチーム打ち合わせ			
ノートテイキング			



通訳利用者との打ち合わせ分析ワークシート

第6編 第3章 演習1

方法: Pre-Conference Discussion, in *Deaf Interpreting: Team Strategies* (Cogen, Forestal, Hills & Hollrah, 2006)を見て、チームのやりとりを分析する。このワークシートを使って、スキル、テクニック、方略が話し合われたか否か(機会を逃内したか)を確認して、チームで合意したことを書く。

依頼者との打ち合わせ (本番の打ち合わせ)	解決済または 議論済	議論されず	合意内容
場面、目的、表出、パワーダイ ナミクス、聴衆の分析			
依頼者の確認			
フォローアップと確認のための アプローチ			
同時、逐次通訳 同時と逐次の連続			
仲介とチーム作業のコーディネー ト			
コミュニケーションモーダリティ とモード			
チームの言語			
意味と通訳の共同構築			
ノートテイキング			
合図の種類と使用			
通訳のテクニック			
通訳に関する決定			



付録 C: 分類表

内容

アメリカ手話の分類表

ホームサインの分類表

視覚的ジェスチャーコミュニケーションの分類表



付録 C 分類表



付録 C
分類表

アメリカ手話の分類表

第1編・第2章・演習4

ASL 言語表現と能力	上級 (安定型)	中級 (新米型)	初心者(未経験)
手の形、動き、位置、手の方向がコミュニティに受け入れられる形で、正しく手話を表すことができる能力	コミュニティで一般に使われている、間違った表現をすることがあまりない	コミュニティで一般に使われている、間違った表現を時々する	コミュニティで一般に使われていない、間違った表現をいつもする
文法の構造			
NMMをコミュニティに受け入れられる形で正しく表現できる能力	ASLの非手指表現が常に的確にできる	ASLの非手指表現がなんとかできる	ASLの非手指表現がまだできない
手話の語順と構造			
ASLの語順と構造に即したASLの文法上の特徴を、コミュニティに受け入れられる形で、正しく組み入れることができる力	ASLの語順と構造を常に正確に示せる	ASLの語順と構造をなんとか示せる	ASLの語順と構造について知らない

アメリカ手話の分類表, 続き

第1編・第2章・演習4

ASL 言語表現と能力	上級 (安定型)	中級 (新米型)	初心者(未経験)
空間の利用			
空間利用の文法をコミュニティに受け入れられる形で使いこなせる力	ASL の意味を伝えるのに空間を正しく使うという言語的文化的な行動を常に取る	ASL の意味を伝えるのに空間を正しく使うという言語的文化的な行動がなんとかかできる	空間をまだ使えない
ディスコース / 韻律の度合い			
リズムが正確で滑らかに表現できる力	常にリズムが正確で滑らかに表現できる	なんとか正しいリズムで滑らかに表現できる	リズムも滑らかでもない
理解度 / 受容力			
話の流れに矛盾しない見解を示すことでメッセージの内容を受け取り理解する力	話の流れに矛盾しない見解を示してメッセージの内容を理解することが常にできる	話の流れに矛盾しない見解を示してメッセージの内容を理解することがようやく やく できる	話の流れに矛盾しない見解を示してメッセージの内容を理解することができない



付録 C 分類表



付録 C
分類表

ホームサイン分類表					
第1編・第2章・演習4					
	初心者 スキルがまだ上達中のか なり 初期の段階にある	上達中 スキルの使い分けが見られ る	堪能 スキルの使い分けのパター ンが全体に見られる	流暢 全体にスキルの使い分けが 明確に見られ、自己調整 もできている	
ホームサインから ASL へ 翻訳 ホームサインを理解し ASL に正確に翻訳できる	ホームサインへの誤認識が 見られる； ホームサイン を ASL に正確に翻訳しな いため、意味が混乱してし まう ほとんどの場合、利用者の ホームサインが分からな い	ホームサインから ASL へ の翻訳が不正確なため、 メッセージの伝達に影響す る 利用者のホームサインを 理解するために、何度も 苦労する	些細なミスをするが明確 にホームサインを ASL に 翻訳する 通訳利用者のホームサイ ンがほとんど理解できてい るようである	ホームサインを十分に理 解しており、ASL への翻訳 ができている 正確かどうか依頼者を見 て判断できる	

ホームサイン分類表, 続き

第1編・第2章・演習4

	初心者 スキルがまだ上達中のか なり 初期の段階にある	上達中 スキルの使い分けが見られ る	堪能 スキルの使い分けのパー ンが全体に見られる	流畅 全体にスキルの使い分けが 明確に見られ、自己調整 もできている
ASL からホームサインへ 視覚的表出 ホームサインを明確に使 える	ホームサインへの誤認識が 見られる； ASLに正確に翻訳しない ため、意味が混乱してしま うため、意味が混乱してし まう 不快感が見られる	ホームサインから ASL へ の翻訳が不正確なため、 メッセージの伝達に影響す る 緊張が見られる	些細なミスをするが明確 にホームサインを ASL に 翻訳する 快適に見える	ホームサインを十分に理 解しており、ASL への翻訳 ができている 洗練されていて、自信があ ることがうかがえる



付録 C 分類表



付録 C
分類表

視覚的ジェスチャーコミュニケーション分類表

第1編・第2章・演習4

	初心者 スキルがまだ上達中のか なり 初期の段階にある	上達中 スキルの使い分けが見られ る	堪能 スキルの使い分けのパター ンが全体に見られる	流暢 全体にスキルの使い分けが 明確に見られ、自己調整 もできている
ジェスチャーから ASL へ 翻訳 ジェスチャーから ASL に 正確に翻訳できる	ジェスチャーへの誤認識が 見られる； ASL に正確に翻訳しない ため、意味が混乱してしま う 通訳利用者のホームサイ ンをほとんど理解していな い	ジェスチャーから ASL への 翻訳が不正確なため、メッ セージの伝達に影響する 度々通訳利用者のジェスチ ャーを理解するのに苦戦 する	些細なミスをするが明確 にジェスチャーを ASL に翻 訳する 利用者のホームサインが ほとんど理解できている ようである	ジェスチャーを十分に理解 しており、ASL への翻訳が できている 正確かどうか利用者を 見 て判断できる

視覚的ジェスチャーコミュニケーション分類表, 続き

第1編・第2章・演習4

	初心者 スキルがまだ上達中のか なり 初期の段階にある	上達中 スキルの使い分けが見られ る	堪能 スキルの使い分けのパター ンが全体に見られる	流暢 全体にスキルの使い分けが 明確に見られ、自己調整 もできている
ASL からジェスチャーへ 視覚的表現 ジェスチャーを明確に使い える	ジェスチャーへの誤認識が 見られる； ASLに正確に翻訳しない ため、意味が混乱してしま う 不快感が見られる	ジェスチャーから ASL への 翻訳が不正確なため、メッ セージの伝達に影響する 緊張が見られる	些細なミスをするが明確 にジェスチャーを ASL に翻 訳する 快適に見える	ジェスチャーを十分に理解 しており、ASL への翻訳が できている 洗練され、信用できるよ うに見える
ジェスチャー:空間の使用 視線、ロールシフト、空間 の使用でディスコースをわ かりやすくする	ロールシフト、正確な視 線、空間の基準を含む空 間の特性の使い方に苦戦 する	空間、ロールシフト、視 線、空間の基準の使い方が 一致していない	些細なミスはあるが、ロー ルシフト、的確な視線、空 間の基準に即して空間を 効果的に使う	空間、ロールシフト、的確 な視線、基準の使用にう まく合わせられる 自己調整ができる



付録 C 分類表



付録 D:用語集



付録 D 用語集

NCIEC ろう通訳カリキュラムのどの編や章で使われている用語か、以下のカッコ[Mx/Ux]または[Mx]などで示されている。

適合(相手に合わせた)サイン(Adapted Sign)=胴囲で表される手話を、例えば「ベルト」の手話を胴囲でなく胸の辺りで表すというように変える。視野の範囲が限られている盲ろう者は、普通胸の辺りで表されるようなかなり狭い範囲での手話を好む。(AADB, 2009) [M3/U2]

アドボケイト(代弁者, Advocate)=主義や政策について議論または支援する人、もしくは、主義やグループのために働きかける人。<http://www.merriam-webster.com/dictionary/advocate> より引用。[M1/U5]

無言語者(アリンガル, Alingual)=いかなる言語においても流暢でない者 [M3/U2]

オーディズム(聴覚至上主義, Audism)=ラテン語の聴くという意味の「アウディレ(audire)」と、実践、行動、信条、態度を示す「-イズム(-ism, 主義)」で、この言葉は次のように定義されている。トム・ハンフリーズによれば「聞こえの能力や、あるいは聞こえる人として振舞う能力に基づいてその人が優れているとする考え方」(*Communicating Across Cultures and Language Learning*. オハイオ州シンシナティ, Union Institute University 博士論文 1977 年)、また、ハーラン・レインによれば、「ろう者を扱う組織・団体は、ろう者について意見を述べ、ろう者を権力者の目線で見、ろう者について語り、ろう者について教え、ろう者が通う学校、場合によってはろう者が住むところを統治することで、ろう者に関わっている。手短かに言えば、オーディズムは、ろうコミュニティに対して支配し、再編し、権力を行使する聴者のやり方なのである」(*The Mask of Benevolence: Disabling the Deaf Community*. New York: Knopf, 1992)。[M3/U4]

覚醒(Awareness)=ろう者が両方の文化を公平に現実的に理解し、どちらも無理なく自然に関われるという、文化覚醒の最終の段階(第 5)で、おそらく最も理想的な段階(Holcomb, 2013)。従順、不調和、抵抗と没入、内省も参照のこと。[M3/U4]

バックトランスレーション(逆翻訳, Back Translation)=すでに他国語に翻訳された文章を元の言語に訳し戻す作業をいう。[M5/U2]

バランスの取れたバイカルチュラル(Balanced Bicultural)=ろうの文化と聴の文化のどちらかが特に好みというのではなく、どちらも同様に無理なく自然に気楽に感じられるろう者をいう。(Holcomb, 1997) [M3/U1]

偏見(バイアス, Bias)=一定の人々、考え方などを他よりも良いと信じ、その結果他の人々を不公平に扱ってしまう傾向にあること。<http://www.merriam-webster.com/dictionary/bias> より。[M2/U3]



付録 D 用語集

バイリンガル(Bilingual) = 広義の定義では、能動的であれ、受動的であれ、2つの言語においてコミュニケーションがとれるスキルを有する人をさす。狭義の定義では、2言語を母語話者あるいは母語話者と同様の熟達度を持って話す人のみをさす。同様に、3言語話者、多言語話者は3言語もしくはそれ以上の言語に関わる同様の状況をさす。<http://dictionary.reference.com/browse/bilingual> より。[M2]

バイリンガル・バイカルチュラル媒介者(Bilingual-Bicultural Mediator) = 通訳される側の文化的知識やインタラクションの基準の知識をもとに、言語の決定を行うバイリンガル・バイカルチュラル通訳者をいう(Napier, J., 2004)。[M5]

意味の共同構築(Co-construction of Meaning) = 意味が実際に客観的な存在を持たないとき、通訳者が、会話に関わっている者(例えばチーム通訳者、通訳利用者)と確認し合うことで意味をはっきりさせることをいう。意味の構築についての詳細は、Janzen(2005)と Shaffer & Wilcox (2005)を参照のこと。[M5/U3, M6/U4]

専門職行動規範(Code of Professional Conduct) = 専門職の立場にある人がその基準を維持するために、いかなる専門家にとっても必要な要素。それにより、専門の仕事をする人は責任、責務、信頼を得ることになる。RID は NAD とともに通訳者の倫理的行動規範を作成した。両団体は通訳者の専門性と倫理行動に高い基準を設けている。<http://www.rid.org/ethics/code/>より引用。[M4]

逐次通訳(Consecutive Interpretation) = 伝えたいことが完全な形で発言されるまで待ち、それから通訳するというプロセス。これにより、元のメッセージの内容だけでなく、メッセージの構造的な要素にある重要な情報—間や声のトーン、強調など単語には含まれないもの—を伝達できる(Russel, 2005)。[M5]

従順(Conformity) = ろう者が聴者の価値観に完全に従順であるという、文化的覚醒の初めの段階。そういう本人自身の理論により、手話の使用や、他のろう者とのつながりを持つといった、ろう者に関わる全ての価値観を否定することになる(Holcomb, 2013)。不調和、抵抗と没入、内省、覚醒も参照のこと。[M3/U1]

文化的隷属(Culturally Captive) = 他のろう者に出会ってろう文化について学ぶという機会がないろう者をいう(Holcomb, 1997)。[M3/U1]

文化的孤立(Culturally Isolated) = 他のろう者に関わるもの全てを拒否するろう者をいう(Holcomb, 1997)。[M3/U1]

文化的周縁化(Culturally Marginal) = ろうコミュニティ、聴コミュニティのどちらにも居場所がないろう者をいう(Holcomb, 1997)。[M3/U1]

文化的分離(Cultural Separate) = ろう者とできるだけ付き合うことを好み聴者と付き合うのは最低限にとどめるというろう者をいう(Holcomb, 1997)。[M3/U1]



付録 D 用語集

ろう優位のバイカルチュラル(Deaf-Dominant Bicultural) =ろうコミュニティを優先にするが聴者とも関わることができるろう者をいう(Holcomb, 1997)。[M3/U1]

デフゲイン(Deaf Gain) =「聞こえないこと」を感覚と認知における多様性の一つとしてとらえなおし、それが人類にとってより良きものとして貢献できる可能性をもったものとする。http://dsdj.gallaudet.edu/assets/section/section2/entry19/DSDJ_entry19.pdfより引用。[M3]

デフプラス(Deaf Plus) =ろうに加えて、医学的、身体的、情緒的、教育的、社会的にもかなり困難を持つ者について使われる言葉である。[M2/U1, M3/U1, M3/U2]

不調和(Dissonance) =自分が他のろう者とは違うと思わせた人たちの意見に疑問を持ち始めるようになる、文化的覚醒の段階のこと。その段階のろう者は他のろう者と付き合い手話を学ぶことで人生はもっと満ち足りたものになるのではと思いはじめ(Holcomb, 2013)。従順、抵抗と没入、内省、覚醒も参照のこと。[M3/U1]

倫理(Ethics) =1) 善悪と道徳的義務と責務に関わる規律; 2) a) 一通りの道徳原理、道徳的価値観の理論や構成、b) 個人または集団を統制する行動原理、c) 指針となる哲学、あるいは d) 道徳の重要性に対する自覚。<http://www.merriam-webster.com/dictionary/ethic>より引用。[M4/U1]

倫理の健全性(Ethical Fitness) =道徳の問題の本質を認識し、均整の取れた判断力と善悪の違いを鋭く見分ける力に対応できる能力(Kidder, 2009)。[M4/U1]

ジェスチャー(Gesture) =普通は、考え、感情、態度を表す、あるいは強調を示す体や手足の動きをいう。つまり、表現の手段としての手足や体の動きである。形式的なまたは丁寧なやり方で何かを言ったりしたりするもの、シンボルまたはしるしとして、あるいは、他人に対する態度に効果を与えるもの。<http://www.merriam-webster.com/dictionary/gesture>より引用。[M3/U2]

聴力優位のバイカルチュラル(Hearing-Dominant Bicultural) =ろうコミュニティとはあまり関わりのないが、機会があり、手話が流暢であれば、ろう者と気楽に接することができる人をいう。(Holcomb, 1997)。[M3/U1]

言語間通訳(Inter-lingual Interpreting) =例えば、他国の手指言語から ASL、ASL から国際手話、書記英語から ASL、というような、異なる言語間の通訳をいう(NCIEC, 2013)。[M5/U1]

通訳者(Interpreter) =ある程度の言語力があり文化に精通しており、もとの言語メッセージを理解し、そのまま即座に使える形で、正確に、十分準備された、対象言語のメッセージにして表す人をいう。(Gile, 2009)。



付録 D 用語集

通訳(Interpretation) =ある言語で出てきたメッセージを、全く同じ他の言語で全く同じメッセージとして伝えるプロセス(Witter-Merithew & Johnson, 2005)。

言語内通訳(イントラリンガル, Intra-lingual Interpreting) =ASL から触 ASL、英語をベースとした接触手話から ASL、またその逆、ASL のミラーリングとシャドウイング、といったような、同一言語内で通訳するプロセス(NCIEC, 2013)。[M5/U1]

内省(Introspection) =ろうコミュニティに没入し聴者を否定するようになった後の、文化的覚醒の第4段階。そういうろう者は、自分の両親が家ででのコミュニケーションや使用言語についてなかなか決められずにいるが努力しようとしていることはわかっており、多くのろう者が手話を学んだ聴者と楽しく過ごしているのを見て、全般的に聴者に対する態度が和らぐようになっていく(Holcomb, 2013)。従順、抵抗と没入、覚醒も参照のこと。[M3/U1]

言語レジスター(Linguistic Register) =言語使用域。言語変種の一つで特定の状況や、コミュニケーションの目的、話者間の関係を反映するもの。[M5/U4]

ミラー翻訳(または通訳)(Mirror translation (or interpretation)) =ろう通訳者が手話話者(情報を発出する側)の方を向いて、聴衆の中で発表する人の手話を文法上の特性も全て模写するというプロセス。それによって、ろう参加者も大勢の観客の前や、会議、総会などで席に就いたまま、前に出たり壇上に上がったりする必要なく、質問したり意見を言ったりすることができる(Boudreault, 2005)。[M5/U4]

モノリンガル(Monolingual) =1)ひとつの言語のみ話せて理解できる;2)ひとつの言語のみ使えて表現できる。<http://www.merriam-webster.com/dictionary/monolingual> より引用。[M3]

抑圧(Oppression) =権力または力の不法な、もしくは厳格な行使。<http://www.merriam-webster.com/dictionary/oppresion> より引用。[M2/U3]

パーム・オン・プリント(手のひらに書く, Palm on Print) =盲ろう者が世間でよく使うコミュニケーション方法。盲ろう者が相手の掌の同じ場所に大きくブロック体で文字を書く(AADB, 2009)。[M3/U2]

触覚コミュニケーション(Pro-Tactile) =盲ろう者とのコミュニケーションや盲ろう依頼者に通訳する場面で、視覚情報を触ることで伝える方法。<http://tactiletheworld.wordpress.com/2013/02/18/pro-tactile-the-deafblind-way/>参照。[M3/U2]

レジスター(Register) =言語レジスター参照。

抵抗と没入(Resistance and Immersion) =ろう者がろう者、ろうコミュニティ、ASL に関する知識を深めるのに夢中になる、文化的覚醒の第3段階(Holcomb, 2013)。従順、不調和、内省、覚醒も参照のこと。[M3/U1]



付録 D 用語集

セミリンガル(Semi-lingual) (訳註:2021 年段階ではダブル・リミテッドという表現が用いられることが多い)＝語彙数が少なく、文法の間違ひがあり、言語の生成が自動的に行われないうろ者を説明するために使われる用語の1つ。セミリンガルなろう者は時として「生きていくための最低限のコミュニケーション」を用いる。その限界があるコミュニケーションにより彼らはどうしても必要なものを手に入れることはできるが、それ以上のことは難しい。ろう者の言語的な立場やコミュニケーション能力については人としての敬意を持って扱うべきで、侮辱的なラベルを当てはめるべきではない(Boudreault, 2005)。ろう通訳者は現在そのような顧客のみと仕事をするわけではないか、かなり頻繁にそのような顧客と仕事をする。そのような人たちに対して用いられてきた他のラベルには、最低限の言語スキル、高度に視覚的、モノリンガル、機能的に低い、限界のある英語能力等がある。そのような用語はさまざまなコンテキストで用いられるが、より適切な用語は a-lingual(無言語の)または semi-lingual セミリンガルである。(NCIEC, 2010) [M3/U2]

サイト(テキスト)トランスレーション (Sight Translation) =ひとつの言語で書かれたもの(テキスト)を他の言語の音声(または手話)に翻訳すること: http://www.najit.org/publications/Modes_of_Interpreting200609.pdf より。[M1/U5, M5/U2]

同時通訳(Simultaneous interpretation) =通訳者が、メッセージを元の言語で表出されたのとほぼ同時に他の言語に訳すプロセスをいう(Witter-Merithew & Johnson, 2005)。[M5/U4]

ステレオタイプ(固定観念, Stereotype) =ある特定の性質を持つ人やものはみな同じであると不当に信じることをいう。-<http://www.merriam-webster.com/dictionary/stereotype> より。[M2/U3]

触 ASL(Tactile ASL) =盲ろう者が手話話者の手の上に自分の手を乗せ、手話の形、動き、位置を感じとる方法。一部の手話や顔の表情は形を変える必要がある。片手または両手の触手話が可能である。(AADB, 2009)。[M3/U2]

触指文字(Tactile Fingerspelling) =盲ろう者は、指文字を表している手、または手話話者の掌の上に自分の手を乗せ、あるいは手話話者の手を自分の手で覆うのを好む。中途失聴の盲や視覚障害者、読話に依存し手話を知らないろうや難聴者は、手話を学ぶことが難しいこともあるので触指文字を好む(AADB, 2009)。[M3/U2]

Tadoma 方式(Tadoma Method) =見えない、あるいは使い物になるほどの視力がない盲ろう者が触ることで話し言葉を理解する方法。そのような盲ろう者は親指を相手の顎に、指をほおに置くことで、相手の声の響きや口の動きを感じ取る。この手法は今ではあまり使われていない(AADB, 2009)。[M3/U2]



付録 D 用語集

チーム通訳(*Team Interpreting*) = 2 人またはそれ以上の通訳者が、特定のコミュニケーションのニーズに対応するために互いにサポートし合う。関係者のニーズや通訳者間の同意、その両者により、チームメンバーそれぞれが責務を順番に担うことになり、フィードバックも行われる [RID, 2007]。[M6/U1]

トラッキング(*Tracking*) = 視野が限られているが少しは見えている(視野狭窄など) 盲ろう者の中には、相手の前腕か手首を掴んで手話の動きを目で追う人もいる(AADB, 2009)。[M3/U2]

翻訳(*Translation*) = もとの言語の内容をそのまま対象言語の文章になおすこと(The Oxford Companion to the English Language, Namit Bhatia, ed., 1992)。[M5/U2]

トランスリテレーション(*Transliteration*) = この言葉は、もともとは音声付き手話のために定義されていた。例: 「音声英語と、英語ベースの語順を使うことの方が多し手指コードの一形態の間で翻訳される」(RID, 2007)、つまり、手話に合わせた英語である。また、この言葉は、もとの手話から同じ対象手話、つまり盲ろう依頼者向けに触言語モードに翻訳するという意味では、ろう通訳者の仕事にも当てはまる(NCIEC, 2010)。[M1/U5]

視覚的ジェスチャーコミュニケーション(*Visual Gestural Communication*) = この表現は、手話とジェスチャーの両方を含む表現として広く使われてきた。ここでは、ジェスチャー、通常の手話、ボディランゲージ、顔の表情をメッセージ作りのために創造的に使用するという意味で使う(NCIEC, 2010)。[M3/U2]

付録 E: 参考資料



NCIEC ろう通訳カリキュラムのどのモジュールやユニットにある引用文かは、[curriculum Resource]も含め、下記のカッコにある[Mx/Ux]で示してある。

Adair, J. (2011). *Effective teambuilding: How to make a winning team (Rev. Ed.)*. London, England: Pan Macmillan. [M6/U1]

Adam, R., Stone, C., Collins, S.D., & Metzger, M. (2014). Deaf interpreters at work: International insights: Volume Eleven. The Studies in Interpretation Series. Washington, DC: Gallaudet University Press. [M6/U5] [Curriculum Resource]

American Association of the Deaf-Blind. (2011). American Association of the Deaf-Blind: *A new beginning*. Retrieved from <http://www.aadb.org/index.html> [M3/U1]

American Association of the Deaf-Blind. (2011). *How do Deaf-Blind people communicate?* Retrieved from http://www.aadb.org/factsheets/db_communications.html [M3/U2]

American Association of the Deaf-Blind. (2011). *Spotlight on the Deaf-Blind community*. Retrieved from http://aadb.org/deaf-blind_community/spotlight.html [M3/U2]

ASLized. (August 10, 2014). *The benefits of Deaf interpreters*. [Videos]. Retrieved from <http://www.deafvideo.tv/235079> and <https://www.youtube.com/watch?v=Ec8LjnVuJx8&list=UU0jdsYSKy1VNHk79mw0RsA> [M1/U1, M3/U4, M6/U6]

ASLized. (May 14, 2013). *The Deaf world in the developing countries*. [Video]. Retrieved from <http://aslized.org/developingcountries/> [M3/U4]

Bahan, B., Bauman, H-D, & Montenegro, F. (2008). *Audism unveiled*. [DVD]. San Diego, CA: DawnSignPress. [M3/U4]

Baker, C., & Padden, C. (1978). Focusing on the nonmanual components of American Sign Language. In P. Siple (Ed.) *Understanding language through sign language research*, 27-57. New York City, NY: Academic Press. [M3/U1]

付録 E 参考資料



Baker-Shenk, C. (1986). Characteristics of oppressed and oppressor peoples: Their effect on the interpreting context. In M. McIntire (Ed.), *Interpreting: The art of cross cultural mediation. Proceedings of the Ninth National Convention of the Registry of Interpreters for the Deaf* (pp. 43-54). Silver Spring, MD: RID Publications. [M1/U4, M2/U3, M3/U4]

付録 E 参考資料

Bar-Tzur, D. (1999). *Integrating the interpreting service models*. Retrieved from <http://www.theinterpretersfriend.org/misc/models.html> [M1/U3, M4/U4]

Beldon, J. (2006). *Eye care after laser surgery*. [Tied to sight translation/ instructions, source unknown]. Personal collection. St. Paul, MN. [M5/U2]

Beldon J. & McCutcheon, P. (n.d.). Team me up? CDI. *Street Leverage*. Retrieved from <http://www.streetleverage.com/team-me-up-cdi> [M6/U6]

Biennu, M., & Colonos, B. (1992). Relay interpreting in the 90s. In L. Swabey (Ed.), *The challenge of the 90s: New standards in interpreter education* (pp. 69-80). United States: Conference of Interpreter Trainers. Also retrieved from <http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2012/07/Biennu.pdf> [M1/U1, M1/U2, M5/U3]

Bonni, E. (2007). *Application of the 10-step discourse analysis process*. [DVD]. Denver, CO: University of Northern Colorado DO IT Center. [M5/U3]

Boudreault, P. (2005). Deaf interpreters. In T. Janzen (Ed.) *Topics in signed language interpreting: Theory and practice* (pp. 323-355). Philadelphia, PA: John Benjamins Publishing. [M3/U2]

Bowen-Bailey, D. & Suggs, T. (2007). *When the law meets medicine. Translating written English texts into ASL for Deaf and hearing interpreters*. [DVD & study guide]. St. Paul, MN: CATIE Center, College of St. Catherine. [Curriculum Resource]

Bowen-Bailey, D. (2005). *Hurry up and wait: Interpreting a visit to an emergency department*. [DVD and study guide]. Retrieved from <http://healthcareinterpreting.org/for-interpreters/video-resources/hurry-wait/> [M5/U3]

Bowen-Bailey, D. (2005). *Relationship of simultaneous and consecutive interpreting. Adjunct to Hurry up and wait: Interpreting a visit to an emergency department* [DVD and study guide]. Retrieved from <http://healthcareinterpreting.org/faqs/relationship-simultaneous-consecutive-interpreting/> [M5/U4]



付録 E 参考資料

Brick, K. & Beldon, J. (2014). Interpreting without a Deaf interpreter is an RID CPC violation. *Street Leverage*. Retrieved from <http://www.streetleverage.com/2014/09/interpreting-without-a-deaf-interpreter-is-an-rid-cpc-violation/> [M6/U6]

Bronk, A. (2012) Interpreters: Gatekeepers for the Deaf interpreter community. *RID VIEWS*, 26 (2), 27-28. Also retrieved from <http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2012/07/0409VIEWS-RIDCommittess-DML.pdf> [M6/U6]

Burns, T.J. (1999). Who needs a Deaf interpreter? I do! *RID VIEWS*, 16 (10), 7. Retrieved from <http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2012/07/Burns.pdf> [M6/U6]

Cartwright, B.E. (2009). *Encounters with reality: 1,001 interpreter scenarios*, 2nd Edition. Alexandria, VA: RID Press. [M4/U1, M4/U3]

Carty, B., Macready, S., & Sayers, E.E. (2009). A grave and gracious woman: Deaf people and signed language in colonial New England in *Sign Language Studies*, 9(3), pp. 297-323. [M1/U1] [Curriculum Resource]

CATIE Center at St. Catherine University. (2003). Internal discussions: *An appointment in gastroenterology*. [CD and study guides]. Retrieved from <http://healthcareinterpreting.org/appt-gastroenterology/> [M5/U3]

Christensen, K. (2000). Exploring students' personal cultures. In *Deaf plus: A multicultural perspective* (pp. 221-223). San Diego, CA: DawnSignPress. [M2/U1, M2/U2, M2/U4]

Cokely, D. (1992). *Interpretation: A sociolinguistic model*. Burtonsville, MD: Linstock Press. [M5/U1]

Cokely, D. & Baker-Shenk, C. L. (1991). *American Sign Language: A teacher's resource text on grammar and culture*. Gallaudet University Press. [M3/U1]

Colonos, B.M. (1997). *Integrated model of interpreting (IMI)*. College Park, MD: Bilingual Mediation Center. <http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2016/01/IMI-Supplemental-Colonos-2015.pdf> [M5/U1, M5/U4]

Commerson, R. (2008). *Redefining D-E-A-F*. [Video]. Master's thesis. Washington, DC: Gallaudet University. Retrieved from <http://www.youtube.com/watch?v=JH0n342f9IA&list=PL0E80FFAC6FA77C76> [M1/U4, M2/U3]



付録 E 参考資料

Crouch, C. (2009). *What I've learned at Gallaudet: Mime and gesture vs. sign*. [Video]. Retrieved from <http://gallaudetblog.wordpress.com/2009/07/08/what-ive-learned-at-gallaudet-mime-and-gesture-vs-sign/> [M3/U2]

Dean, R.K. & Pollard, R.Q. (2013). *The demand control schema: Interpreting as a practice profession*. CreateSpace. See also <http://demandcontrolschema.com> [M2/U2, M2/U5, M3/U3, M4/U1, M4/U3]

Dean, R. & Pollard, R. (n.d.). *Introduction to demand control theory*. [Videos]. Retrieved from <http://www.interpretereducation.org/aspiring-interpreter/mentorship/mentoring-toolkit/mentoring-toolkit-videos/> [M2/U2, M2/U5]

Deaf-Blind Interpreting, Training & Professional Development. (2014). *Deaf-Blind Interpreting, Training & Professional Development*. Retrieved from <https://sites.google.com/site/deafblindtip/> [Curriculum Resource]

Doane, S. (2010, July 5). Deaf immigrant's American dream on Ellis Island [article & video]. *CBS News*. Retrieved from <http://www.cbsnews.com/news/deaf-immigrants-american-dream-on-ellis-island/> [M2/U4]

Egnatovitch, R. (1999). Certified Deaf interpreter—WHY? *Registry of Interpreters for the Deaf, RID VIEWS*, 16 (10). Also retrieved from <http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2012/07/Egnatovitch.pdf> [M1/U1]

European Union of the Deaf. (2011). *International sign disclaimer*. Changed to *International Sign Guidelines (2012)*. Retrieved from <http://www.eud.eu/about-us/eud-position-paper/international-sign-guidelines/> [M3/U2]

Finton, L. & Smith, R.T. (2009). *Interpreter discourse: English to ASL expansion/ASL to English compression*. Rochester, NY: Rochester Institute of Technology/National Technical Institute for the Deaf Educational Materials. [M5/U2]

Forestal, E. (2005). The emerging professionals: Deaf interpreters and their views and experiences on training. In M. Marschark, R. Peterson, & E.A. Winston (Eds.), *Sign language interpreting and interpreter education: Directions for research and practice* (pp. 235-258). New York, NY: Oxford University Press. [M1/U1] [Curriculum Resource]

Foxman, L. & Lampiris, A. (1999). Implications of vision loss on the interpreting process, In M. McIntire (Ed.) *Interpreting: The art of cross cultural mediation. Proceedings of the Ninth National Convention of the Registry of Interpreters for the Deaf* (pp. 63-77). Silver Spring, MD: RID Publications. [M3/U2]

Francis, D. & Young, D. (1992). *Improving Work Groups, A Practical Manual for Team Building (Rev. ed.)*. Hoboken, NJ: John Wiley & Sons. [M6/U1]

Gallaudet University. (2007). *NCHDHH: Are you a victim of white privilege, hearing privilege, or both?* [Video, 53:50-58:43]. Retrieved from <http://videocatalog.gallaudet.edu/?video=16649> [M1/U4, M2/U3]

Gallaudet GSR 103. (2010). *ASL registers*. [Video]. Retrieved from <https://www.youtube.com/watch?v=rhMU2PqMitg> [M5/U4]

Gallaudet University. (2012). *Commencement ceremony. Honorary degree recipient and commencement speaker, Markku Juhani Jokinen, then- president, World Federation of the Deaf*. [Video]. Retrieved from <http://www.youtube.com/watch?v=zNRNw9Cc49Q&feature=relmfu> [M5/U4]

Gallaudet University. (2002). *The Deaf Way II presentation series: Video conference interpreting project–Revolutionizing services for deaf*. [Video]. Retrieved from <http://videocatalog.gallaudet.edu/?video=13868> [M5/U4]

Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. (2012). *Learning community series: Deaf/hearing interpreting team training*. [Video]. Retrieved from <https://www.youtube.com/watch?v=wqUftVYB6p8> [M6/U2]

Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. (2012). *Learning community series: Deaf/hearing interpreting team expert panel*. [Video]. Retrieved from <https://www.youtube.com/watch?v=smpz5Ene114> [M6/U2]

Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. (2012). *Learning community series: Deaf/hearing interpreting expert team training*. [Video]. Retrieved from <https://www.youtube.com/watch?v=aGRMTbcsdkw> [M6/U2] [Curriculum Resource]

Gertz, G. (2008). Dysconscious audism: A theoretical proposition. In Bauman, H-D. L. (Ed.), *Open your Eyes: Deaf studies talking*. (pp. 219-234). Washington, DC: Gallaudet University Press. [M1/U4]

Gile, D. (2009). *Basic concepts and models for interpreter and translator training (Rev. ed.)*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing. [M3/U2, M5/U1, M5/U2, M5/U4]



付録 E 参考資料



付録 E 参考資料

Gish, S. (1996). The Gish approach to information processing. In S. Boinis, P.G. Mickelson, P. Gordon, L.S. Krouse, & L. Swabey, *MRID self-paced modules for educational interpreter skill development*. (pp. 52-89). Little Canada, MN: Minnesota Educational Services. [M5/U1]

Gish, S. (1990). Ethics and decision making for interpreters in health care settings: A student manual. Minneapolis, MN: College of St. Catherine. [M4/U3] [Curriculum Resource]

Granda, AJ & Nuccio, J. (n.d.). Pro-Tactile: *The DeafBlind way*. [Videos with transcripts]. Retrieved from <https://youtu.be/l11lahuiHLA> [M5/U4]

Hauser, P., O'Hearn, A., McKee, M., Steider, A., & Thew, D., (2010). Deaf epistemology: Deafhood and deafness. *American Annals of the Deaf*. 154(5), 486-492. [M6/U6]

Helen Keller National Center for Deaf-Blind Youths and Adults. (2014). *Helen Keller National Center for Deaf-Blind Youths and Adults*. Retrieved from <http://www.hknc.org/> [Curriculum Resource]

Hillery, G. A., Jr. (1955). Definitions of community: Areas of agreement. *Rural Sociology*, 20: 111-123. [M3/U1]

Holcomb, T. K. (2013). *An introduction to American Deaf culture*. New York City, NY: Oxford University Press. [M3/U1]

Holcomb, T. K. (1997). Development of Deaf bicultural identity. *American Annals of the Deaf*, 142 (2), 89-93. Retrieved from <http://muse.jhu.edu/journals/aad/summary/v142/142.2.holcomb.html>. See also <https://www.youtube.com/watch?v=RMOVHREOqqk&feature=youtu.be> (NCIEC, 2012). [M3/U1]

Hollrah, B. (2012). *Deaf interpreting: Team strategies for interpreting in a mental health setting*. [DVD]. Washington, DC: Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. Retrieved from <http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/#H> [M5/U3, M6/U2 Curriculum Resource, M6/U3, M6/U4]

Hollrah, B. (2012). *Examples of a Deaf interpreter's work*. [DVD]. Washington, DC: Gallaudet University Regional Interpreter Education Center. Retrieved from <http://digitalcommons.unf.edu/asleimats/50/> [M5/U2, M5/U3, M6/U6]



付録 E 参考資料

Howard, N. (2013). Deaf interpreters: The state of inclusion. *Street Leverage*. Retrieved from <http://www.streetleverage.com/2013/04/nigel-howard-deaf-interpreters-the-state-of-inclusion/> [M6/U6]

Hoza, J. (2010). *Team Interpreting as Collaboration and Interdependence*. Alexandria, VA: RID Press. Also retrieved from http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2014/08/RIDPressTeamInterpretingChap1_HOZA2.pdf [M6/U1, M6/U5]

Hoza, J. (2007). *How interpreters convey social meaning: Implications for interpreted interaction*. *Journal of Interpretation*, 2007, 39-68. [Curriculum Resource]

Humphrey, J. & Alcorn, B. (2007). *So you want to be an interpreter? An introduction to sign language interpreting (4th ed.)*. Everett, WA: H&H Publishing Co., Inc. [M1/U1, M1/U2, M1/U3, M3/U1, M4/U1, M5/U1, M5/U4]

Jarashow, B. (2011). *Journey into the Deaf world* [Video]. Retrieved from <http://www.youtube.com/watch?v=93RxomTzcws> [M1/U4]

Kannapell, B. (1989). Inside the Deaf community. In S. Wilcox (Ed.), *American Deaf culture: An anthology*. Burtonsville, MD: Linstock Press, Inc. [M3/U1]

Kidder, R.M. (2003). *How good people make tough choices (Rev. ed.)*. New York: HarperCollins Publishers. [M4/U1]

Kohlberg, L. (1981). *The philosophy of moral development: Moral stages and the idea of justice*. San Francisco: Harper & Row. [M4/U1]

Ladd, P. (1994). Deaf culture: Finding it and nurturing it. In C. Erting, R.C. Johnson, D. Smith & B. Snider (Eds.). *The Deaf way*. Washington, DC: Gallaudet University Press. [M3/U1]

Lentz, E. (2008). *Excerpt of Martin Luther King, Jr. speech signed in ASL*. [Video]. Retrieved from http://www.youtube.com/watch?v=cN6sypbhJAc&feature=youtube_gdata_player [M5] [Curriculum Resource]

Long, G. (2010). *Using functional communication assessment to develop meaningful interventions with individuals who are Deaf and lower functioning*. [Two-part webcast; resources available for download]. Retrieved from <http://www.pepnet.org/resources/using-functional-communicationwc> [M3/U3]



付録 E 参考資料

Lucas, C. (Ed.). (1995). *The sociolinguistics of the Deaf communities*. Washington, D.C.: Gallaudet University Press. [M1/U4]

Mackin, D. (2007). *The team building tool kit: tips, tactics, and rules for effective workplace teams (Rev. ed.)*. New York City, NY: AMACOM. [M6/U1]

Mano a Mano. (n.d.) *Mano a Mano*. Retrieved from <http://www.manoamano-unidos.org/> [M2/U1]

McCaskill, C., Lucas, C., Bayley, R., & Hill, J. (2011). *The hidden treasure of Black ASL: Its history and structure*. Washington, DC: Gallaudet University Press. See also <http://blackaslproject.gallaudet.edu/BlackASLProject/Welcome.html> [M2/U2]

McDermid, C. (2010). Culture brokers, advocates, or conduits: Pedagogical considerations for Deaf interpreter education. *International Journal of Interpreter Education*, 76-101. Also retrieved from http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2014/01/pp_76-101_McDermid_Vol22.pdf [M1/U3]

McKee, R.L. & Davis, J. (2010). *Interpreting in multilingual, multicultural contexts*. Washington, DC: Gallaudet University Press. [M3/U1]

Mesch, J. (2010). *Perspectives on the concept and definition of International Sign*. Publication prepared for the World Federation of the Deaf. Retrieved from http://www.wfdeaf.org/wp-content/uploads/2012/03/Perspectives-on-the-Concept-and-Definition-of-IS_Mesch-FINAL.pdf [M3/U2]

Mindess, A. (2014). Are hearing interpreters responsible to pave the way for Deaf interpreters? *Street Leverage*. Retrieved from <http://www.streetleverage.com/2014/08/are-hearing-interpreters-responsible-to-pave-the-way-for-deaf-interpreters/> [M6/U6]

Mindess, A. (2014). *Reading between the signs: Intercultural communication for sign language interpreters (3rd edition)*. Yarmouth, ME: Intercultural Press. [M1/U2, M3/U1]

Mindess, A. (2004). *Reading between the signs workbook: A cultural guide for sign language students and interpreters*. Boston, MA: Intercultural Press. [M3/U2]

Miner, H.M., Body ritual among the Nacirema, *American Anthropologist*, vol 58: pp. 503-507, June 1956. [Curriculum Resource]

Morrow, S.M. & Schwenke, T. (2013). Deaf-Blind interpreting through the lens of the demand control schema. 2013 Registry of Interpreters for the Deaf National Conference at Indianapolis, IN. Retrieved from <http://www.diiinstitute.org/wp-content/uploads/2014/09/DB-Interpreting-through-the-Lens-of-the-DCS-Morrow-Schwenke.pdf> [Curriculum Resource]



Napier, J. & Barker, R. (2004). Sign language interpreting: The relationship between metalinguistic awareness and the production of interpreting omissions. *Sign Language Studies*, 4(4), 369-393. Also retrieved from https://muse.jhu.edu/journals/sign_language_studies/summary/v004/4.4napier.html [Curriculum Resource]

付録 E 参考資料

Napier, J. (2007). *Cooperation in interpreter-mediated monologic talk*. *Discourse & Communication*, 1(4), 407-432. [M5/U5]

National Alliance of Black Deaf Interpreters. (2008). *National Alliance of Black Interpreters*. Retrieved from <http://www.naobidc.org/> [M2/U1]

National Asian Deaf Congress. (2012). *National Asian Deaf Congress*. Retrieved from <http://www.nadcusa.org/> [M2/U1]

National Association of the Deaf. (2013). *National Association of the Deaf*. Retrieved from <http://nad.org/> [M2/U1]

National Black Deaf Advocates. (2013). *National Black Deaf Advocates*. Retrieved from <http://www.nbda.org/> [M2/U1]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Ethical case studies by Deaf interpreters*. [Videos]. Boston, MA: NCIEC. [M4/U3]

- Briggs, J. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104182638>
- Dale, B. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104178133>
- Diaz, R. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104028837>
- Grigg, K. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104020505> and <https://vimeo.com/104020508>
- Horn, A. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/103869694>
- Marsh, T. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104028836>
- Plaster, R. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104178132>
- Pollock, J. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104182594>



付録 E 参考資料

- Poore, K. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104028835>
- Schertz, B. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104178134>
- Schertz, J. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104051870>
- Tester, C. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104178135> and <https://vimeo.com/104178136>

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Ethics case study 2: Individual vs. community* by Clark, S. [Video, followed by Reflections videos, below]. Boston, MA: NCIEC. Retrieved from <https://vimeo.com/104093024> [M4/U1]

- Reflections by Diaz, R. & Schertz, B. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104156339>
- Reflections by Grigg, K. & Horn, A. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104092882>
- Reflections by Marsh, T. & Dale, B. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104092937>
- Reflections by Pollock, J. & Briggs, J. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104092878>
- Reflections by Poore, K. & Schertz, J. Retrieved from <https://vimeo.com/104092879>
- Reflections by Tester, C. & Plaster, R. Retrieved from <https://vimeo.com/104092877>
- Reflections by Hinson, B. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104092876>

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Individualized education program (IEP) meeting series*. [Videos]. Boston, MA: NCIEC. [M6/U2, M6/U3]

- First day: Pre-conference with interpreting team. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104182641>
- First day: Pre-conference with teacher. [Video]. Retrieved from <http://vimeo.com/104182643>
- First day: IEP meeting. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104182640>
- First day: Deaf interpreter reflections. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104192305>



付録 E 参考資料

- First day: Hearing interpreter reflections. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104192306>
- First day: Teacher reflections. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104192307>
- Second day: Pre-conference with interpreting team. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104226264>
- Second day: Pre-conference with the teacher. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104226265>
- Second day: IEP meeting. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104494170>
- Second day: Guided discussion with interpreting team. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104192308>
- Second day: Guided discussion with observers. [Video]. Retrieved from <http://vimeo.com/104192310>

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Interpreting in Spanish-influenced settings: Video vignettes of working trilingual interpreters* (ASL/Spanish/English). <http://www.interpretereducation.org/tim/video-series/>. Boston, MA: NCIEC. Also retrieved from <http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/#N> [M6/U4 Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Job Training: Dishwasher operation*. [Videos]. Boston, MA: NCIEC. [M6/U2]

- Pre-assignment interpreter reflections. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104110576>
- Meeting the Deaf consumer. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104093030>
- Reflections after meeting the Deaf consumer. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104110578>
- Meeting the hearing consumer. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104110573>
- Dishwasher operation training. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104093029>
- Post-assignment interpreter reflections. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104110575>



付録 E 参考資料

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Medical appointment series*. [Videos]. Boston, MA: NCIEC. [M5/U1, M5/U2, M6/U2]

- Medical appointment 1: Pre-conference with the interpreting team. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104156407>
- Medical appointment 1: Pre-conference with doctor. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104226263>
- Medical appointment 1: Meeting with Deaf patient. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104156406>
- Medical appointment 1: Doctor-patient appointment. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104494171>
- Medical appointment 1: Interpreting team reflections. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104156408>
- Medical appointment 1: Deaf patient perspectives. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104258070>
- Medical appointment 2: Pre-conference with interpreting team. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104177983>
- Medical appointment 2: Meeting with Deaf patient and doctor- patient appointment. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104494172>
- Medical appointment 2: Hearing interpreter reflections. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104177981>
- Medical appointment 2: Deaf patient perspectives. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104177982>
- Medical appointment 2: Guided discussion with interpreting team. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104156409>
- Medical appointment 2: Guided discussion with observers. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104156411>
- Medical appointment 2: Reflections from the doctor. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104256438>

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Oppression: Introduction and panel discussion*. [Videos]. Retrieved from <https://vimeo.com/104122969> and <https://vimeo.com/104121343> [M1/U4]

- Experiences with oppression: IEP session by Clark S. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104093026>
- Experiences with oppression: Courtroom process by Tester, C. [Video]. Retrieved from <https://vimeo.com/104093027>



National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Perspectives on the 1997 RID CDI standard practice paper: Introduction and panel discussion*. [Videos]. Retrieved from <https://vimeo.com/104121344> and <https://vimeo.com/104121341> [M1/U1, M6/U1]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Reflections on cultural & religious diversity*. [Videos]. [M2/U3, M2/U5, M3/U3]

- Beldon, J. [Video]. Retrieved from <http://vimeo.com/104121348>
- Forestal, E. [Video]. Retrieved from <http://vimeo.com/104121347>
- Napier, C. [Video]. Retrieved from <http://vimeo.com/104047057>
- Peterkin, L.G. [Video]. Retrieved from <http://vimeo.com/104122971>

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2014). *Teaching modules for the classroom: To your future health-Contemplating interpreting in healthcare*. [Requires account login]. Retrieved from <http://interpretereducation.org/online>; see also <http://healthcareinterpreting.org/faqs/fg-sight-translation/> [M3/U2, M5/U2 Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Mentoring toolkit*. [Videos]. Retrieved from <http://www.interpretereducation.org/aspiring-interpreter/mentorship/mentoring-toolkit/mentoring-toolkit-videos/> [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom—Deaf Blind interpreting*. [Requires account login]. Retrieved from <http://interpretereducation.org/online/> [M3/U2, M5/U4]

- Overview of the DeafBlind community. [Video]. Also retrieved from <http://vimeo.com/30374196>
- Modifications to your interpreting mode. [Video & PDF]. Also retrieved from <http://vimeo.com/30801444>
- Modifications to mode-close vision and tracking. [Video]. Also retrieved from <http://vimeo.com/30374306>
- Modifications to the environment. [PDF].
- Additional responsibilities. [PDF].

付録 E 参考資料



付録 E 参考資料

- Environmental and ergonomic considerations for DeafBlind interpreting. [Videos & PDF].
- Helen Keller conference. (DeafBlind interpreting). [Video]. Also retrieved from <http://vimeo.com/user5994566/hknc-conference>
- Suggestions for simulating vision and hearing loss. [PDF].

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). *Teaching modules for the classroom—Deaf interpreter/hearing interpreter teams*. [Requires account login].

Retrieved from <http://interpretereducation.org/online/> [M1/U1, M1/U2, M3/U2, M5/U1, M6/U6]

- Unit 1—Introduction and overview of Deaf interpreter/hearing interpreter teams. [Includes ASL translation].
- Unit 1.2.1—Defining the work of Deaf interpreters and hearing interpreters. [ASL translation]. Also retrieved from <http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/presentation/56a13b13-b824-446b-b7ab-344c385f2927/>
- Unit 1.2.2—Brief history of certification in the U.S. [ASL translation]. Also retrieved from <http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/presentation/3bbb27bc-93d4-4ab8-8b2c-3855e6e442e9/>
- Unit 1.3— What it takes to be a Deaf interpreter and How Deaf interpreter/hearing interpreter teams form. [ASL translations]. Also retrieved from <http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/presentation/c4eb38f5-392c-44d7-9bd4-7fb363e97e0f>
- Unit 2.1—Making the case for a Deaf interpreter-hearing interpreter (DI/HI) team. Also retrieved from <http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/presentation/8931ea84-5308-4d45-a367-d2329f2e3de9>
- Unit 2.2—Coda vs Deaf interpreter. Also retrieved from <http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/presentation/e8581154-8972-486f-bdc3-b0e7f35066e3>
- Unit 2.3—Benefits of having a Deaf interpreter as part of a team. Also retrieved from <http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/presentation/4dcaf44a-f3e1-4498-b72e-0888158e63f1>

- Units 3.1 and 3.2 on Possible Consumers. [Video with slides]. Also retrieved from <http://echo360.gallaudet.edu:8080/ess/echo/presentation/c21aed40-d09f-4471-b489-d17ef9596a57>



National Consortium of Interpreter Education Centers. (2013). Teaching modules for the classroom—Interpreting in vocational rehabilitation: Faces of Deaf consumers. [Requires account login]. Retrieved from <http://interpretereducation.org/online/> [M2/U4, M3/U1, M3/U2, M3/U4]

付録 E 参考資料

- The challenge of terminology. (NCIEC, 2013).
- Characteristics of oppressed and oppressor peoples: Their effect on the interpreting context. (Baker-Shenk, 1986).
- Discussing the case of Elizabeth Smart (with Marsh, T.). [Video]. Also retrieved from <http://youtu.be/5KGvPVIInvSo>
- Identity, communication and characteristics. (NCIEC, 2013). Also includes *Development of a Deaf bicultural identity* (Holcomb, 1997) and companion video (NCIEC, 2012). Retrieved from <https://www.youtube.com/watch?v=RMOVHREOqqk&feature=youtu.be>
- Individuals who are LFD report. (Dew, 1999).
- Inside the Deaf community. (Kannapell, 1989).
- Remembering the events of 9/11 (with Sifuentes, A.). [Video]. Also retrieved from <https://www.youtube.com/watch?v=-Y6TN6jit0Y&feature=youtu.be>
- Remembrances of 9/11 from Diana. [Video]. Retrieved from <https://youtu.be/IN-9K4L9JaI>
- Stories of growing up with Charlotte. [Video]. Also retrieved from <https://www.youtube.com/watch?v=br64ONx5Ckk&feature=youtu.be>

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *2007 National Deaf interpreter survey: Work settings*. [Includes video clip]. Retrieved from <http://www.diinstitute.org/study-results-2/2007-national-di-survey/work-settings/> [M1/U1]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Advocating for yourself and others. In Deaf self advocacy training curriculum toolkit (2nd edition), Trainer version*. Boston, MA: NCIEC. [M1/U5, M4/U4]



付録 E 参考資料

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). Annotated bibliography. [Includes video clips]. Retrieved from <http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/> [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Deaf Interpreter Institute: Critical issues forum 2006*. [Includes video clips]. Retrieved from <http://www.diinstitute.org/learning-center/critical-issues-forum-2006/> [M3/U2, M5/U1]

- Consumer assessment: Deaf interpreters and sign language assessment [Video]. (Boudreault, 2006).
- Consumer assessment: Overview of Deaf consumer language development. [Video]. (Moyers, 2006).
- Consumer assessment: Decision-making criteria. [Video]. (Napier, C., 2006).
- Deaf interpreting processes: Comprehension, knowledge acquisition, effort model in interpreting and translation. [Video]. (Peterson, 2006). [Curriculum Resource]
- Language assessment: Gestures. [Video]. (Morales, 2006).

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Deaf interpreter institute: Introduction and generalist competencies*. [Includes video clip]. Retrieved from <http://www.diinstitute.org/di-competencies/introduction-generalist-competencies/> [M2/U5]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Focus group results: Deaf interpreting processes*. [Includes video clip]. Retrieved from <http://www.diinstitute.org/study-results-2/focus-groups/deaf-interpreters/deaf-interpreting-processes/> [M1/U3]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Focus group results: Formative experiences*. [Includes video clip]. Retrieved from <http://www.diinstitute.org/study-results-2/focus-groups/deaf-interpreters/formative-experiences/> [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Interpreting in vocational rehabilitation settings*. <http://www.interpretereducation.org/tim/video-series/>. Boston, MA: NCIEC. Retrieved from <http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/#N> [M1/U4, M2/U4, M3/U2, M6/U4, M6/U5]



付録 E 参考資料

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Interpreting practice competencies*. Retrieved from <http://www.diinstitute.org/di-competencies/interpreting-practice-competencies/> [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Outcomes Circle: In their own words—Shajida Wise*. [Video]. Retrieved from <http://vimeo.com/38923437> [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Outcomes Circle: In their own words—Anindya Bhattacharyya*. [Video]. Retrieved from <http://vimeo.com/38923597> [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2012). *Outcomes Circle: In their own words—Tracey Gilbert-Dallow*. [Video]. Retrieved from <http://vimeo.com/41776251> [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2011). *Deaf interpreters at work: Mock trial*. <http://www.interpretereducation.org/tim/video-series/>. Also retrieved from <http://www.diinstitute.org/resources-2/annotated-bibliography/> [M5/U3]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2010). *Toward effective practice: Competencies of the Deaf interpreter*. Retrieved from http://www.interpretereducation.org/wp-content/uploads/2011/04/DC_Final_Final.pdf [M1/U2, M3/U2, M5/U2, M5/U3, M5/U4, M6/U3]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2009a). *Analysis of Deaf Interpreter focus group discussions conducted April-July 2007*. Retrieved from http://diinstitute.org/wp-content/uploads/2010/03/DI_FocusGroups_FinalReport.pdf [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2009b). *Findings of Deaf interpreter educator focus groups conducted December 2007*. Retrieved from http://diinstitute.org/wp-content/uploads/2012/07/DI_Ed_Focus_FinalReport.pdf [Curriculum Resource]

National Consortium of Interpreter Education Centers. (2009c). *Findings of a national survey of Deaf interpreters conducted spring 2007*. Retrieved from http://www.diinstitute.org/wp-content/uploads/2012/07/NCIEC_Deaf_Interpreter_Survey1.pdf [Curriculum Resource]



付録 E 参考資料

National Council of Hispano Deaf and Hard of Hearing. (n.d.). *NCHDHH renamed its organization to Council de Manos (2015)*. Retrieved from <http://www.councildemanos.org/> [M2/U1]

National Council on Interpreting in Health Care. (2009). *Sight translation and written translation: Guidelines for healthcare interpreters*. Retrieved from <http://bit.ly/1tl3AiV> [Curriculum Resource]

National Multicultural Interpreter Project. (2000). *Cultural and linguistic diversity series: Life experiences of Donnette Reins, American Indian, Muskogee Nation*. [ASL with English voiceover]. El Paso, TX: El Paso Community College. Retrieved from <http://ncrtm.ed.gov/>. Instructional supplement retrieved from <http://ncrtm.ed.gov/>. [M2/U2, M2/U3, M2/ U5] *This curriculum contains resources from The National Clearinghouse of Rehabilitation Training Materials (NCRTM)*.

National Multicultural Interpreter Project (2000). *Multicultural Interpreter Issues: From the Deaf multicultural perspective with Dr. Angel Ramos, Martin Hiraga and Dr. Howard Busby*. [ASL with English voiceover. Includes Native American Powwow segment 6:55-8:58 and Asian Funeral segment 9:26- 10:46]. El Paso, TX: El Paso Community College. Retrieved from <http://ncrtm.ed.gov/>. [M2/U2, M2/U5] *This curriculum contains resources from The National Clearinghouse of Rehabilitation Training Materials (NCRTM)*.

National Task Force on Deaf-Blind Interpreting. (2014). Annotated bibliography on Deaf-Blind interpreting. Retrieved from <https://nationaldb.org/library/page/2476> [Curriculum Resource]

Olson, D. (2011). Seeking freedom, en masse. *The Press-Enterprise*. Retrieved from <http://www.pe.com/articles/deaf-599498-asylum-people.html> [M2/U4]

Padden, C. (1989). The Deaf Community and the Culture of Deaf People. In S. Wilcox (Ed.), *American Deaf culture: An anthology*. Burtonsville, MD: Linstock Press, Inc. [M3/U1]

Patrie, C.J. (2005). *The effective interpreting series: Simultaneous interpreting from English, Teacher's set*. San Diego, CA: DawnSignPress. [M5/U4]

Patrie, C.J. (2004). *The effective interpreting series: Consecutive interpreting from English, Teacher's set*. San Diego, CA: DawnSignPress. [M5/U3]

Patrie, C.J. (2001). *The effective interpreting series: Translating from English, Teacher's set*. San Diego, CA: DawnSignPress. [M5/U2]

Pope, J. & Collins, S.D. (2014). Pro-tactile: Understanding touch techniques to facilitate communication with DeafBlind people, part 1. Retrieved from http://issuu.com/dbtip/docs/pro-tactile_understanding_the_touch [M5/U4]



Powers, M. (2012, March 12). Deaf students new to US find their footing. The Boston Globe. Retrieved from <http://sbilingual.wordpress.com/2012/03/12/deaf-students-new-to-us-find-their-footing/> [M2/U4]

Practicing awareness of microaggressions. (June 1, 2013). [Blog post]. Retrieved from <http://littlelaughter.wordpress.com/2013/06/01/practicing-awareness-of-microaggressions/> [M2/U3]

Registry of Interpreters for the Deaf. (2014). *ASL ethics videos.* [Videos]. Retrieved from <http://rid.org/ethics/> [M4/U2]

Registry of Interpreters for the Deaf. (2014). *Registry of Interpreters for the Deaf.* Retrieved from <http://www.rid.org/> [M2/U1]

Registry of Interpreters for the Deaf. (2013). *Ethical practices system.* Retrieved from <http://rid.org/ethics/> [M4/U2]

Registry of Interpreters for the Deaf. (2013). *Enforcement procedures.* Retrieved from <http://rid.org/ethics/> [M4/U2]

Registry of Interpreters for the Deaf. (January 2008). *President's report: Reaffirming the NAD-RID relationship.* Alexandria, VA: RID VIEWS. <http://rid.org/publications-overview/views/views-archives/> [M4/U2]

Registry of Interpreters for the Deaf (2007). *Standard practice paper: Multiple roles in interpreting.* Retrieved from <http://rid.org/about-interpreting/standard-practice-papers/> [M1/U5] [Curriculum Resource]

Registry of Interpreters for the Deaf (2007). *Standard practice paper: Professional sign language interpreting.* Retrieved from <http://rid.org/about-interpreting/standard-practice-papers/> [M1/U5]

Registry of Interpreters for the Deaf (2007). *Standard practice paper: Team interpreting.* Retrieved from <http://rid.org/about-interpreting/standard-practice-papers/> [M6/U1]

Registry of Interpreters for the Deaf. (2007). *Standard practice paper: Interpreting for Individuals Who Are DeafBlind.* Retrieved from <http://rid.org/about-interpreting/standard-practice-papers/> [M3/U2]

付録 E 参考資料



付録 E 参考資料

Registry of Interpreters for the Deaf. (2005). *NAD-RID code of professional conduct*. Retrieved from <http://rid.org/ethics/code-of-professional-conduct/> [M4/U2]

Registry of Interpreters for the Deaf (1997). *Standard practice paper: Use of a certified Deaf interpreter*. Retrieved from <http://rid.org/about-interpreting/standard-practice-papers/> [M1/U1, M1/U5, M2/U5, M6/U1]

Ressler, C. (1999). A comparative analysis of a direct interpretation and an intermediary interpretation in American Sign Language. In D. Watson (Ed.), *Journal of Interpretation*. Silver Spring, MD: RID Publications. [Curriculum Resource]

Road to Deaf interpreting. (2009). *Road to Deaf interpreting training series*. Retrieved from <http://roadtodeafinterpreting.webs.com/> [M1/U2]

Russell, D. (2013). A comparison of simultaneous and consecutive interpreting in the courtroom. In *International Journal of Disability, Community, and Rehabilitation*. Volume 2, No. 1. Retrieved from http://www.ijdc.ca/VOL02_01_CAN/articles/russell.shtml [M5/U3, M5/U4]

Russell, D. (2013) *Consecutive interpreting or...time is on my side* [Video]. Retrieved from <http://www.youtube.com/watch?v=f7g7vZOyRH8&feature=youtu.be> [M5/U3, M5/U4]

Sacred Circle. (2010). *Sacred Circle*. Retrieved from <http://www.deafnative.com> [M2/U1]

Shepard-Kegl, J., McKinley, F., & Reynold, D. (2005). The role of Deaf interpreters: *Lessons from the past and a vision for the future*. *Interpres*. 18(4), 16-18. [M1/U2] [Curriculum Resource]

Solow, S.N. (n.d.). *Mentoring toolkit: Cokely's model 1: The importance of models and Cokely's model 2: Cokely's model*. [Videos]. Boston, MA: National Consortium of Interpreter Education Centers. Retrieved from <http://www.interpretereducation.org/aspiring-interpreter/mentorship/mentoring-toolkit/mentoring-toolkit-videos/> [M5/U1]

Stewart, K.M. & Witter-Merithew, A. (2006). *Ethical decision-making: A guided exploration for interpreters*. Burtonsville, MD: Sign Media Incorporated. [M4] [Curriculum Resource]

Straitiy, A. (1999). *The pursuit of ASL: Interesting facts using classifiers*. [DVD]. Edmonton, Alberta, Canada: Interpreting Consolidated. [M5/U2, M5/U3]

Swabey, L., & Mickelson, P.G. (2008). Role definition: A perspective on forty years of professionalism in sign language interpreting. In C. Valero- Garcés and A. Martin (Eds.) *Crossing Borders in Community Interpreting: Definitions and Dilemmas*. (Vol. 76). Philadelphia, PA: John Benjamins Publishing. [M4/U2]



Teaching Tolerance. (n.d.). *Test yourself for hidden bias*. Retrieved from <http://www.tolerance.org/activity/test-yourself-hidden-bias> [M2/U3, M3/U4]

TED Talks. (2014). *TED Talks*. [Videos]. Retrieved from <http://www.ted.com/talks/browse> [M6/U4]

Witter-Merrithew, A. (2001). *Feedback: A conversation about “the work” between learners and colleagues*. Student handout. Denver, CO: University of North Colorado Distance Opportunities for Interpreter Training Center (UNC-DO IT). Retrieved from http://www.unco.edu/doit/resources/Publication_PDFs/FeedbackAConversationAboutTheWork.pdf [M6/U2]

World Federation of the Deaf. (n.d.). *Sign language*. Retrieved from <http://wfdeaf.org/our-work/focus-areas/sign-language> [M3/U2]

付録 E 参考資料





付録：F 発表 スライド

内容



付録 E 発表スライド

第 1 章: 発表スライド 1-19

第 2 章: 発表スライド 1-43

第 3 章: 発表スライド 1-34

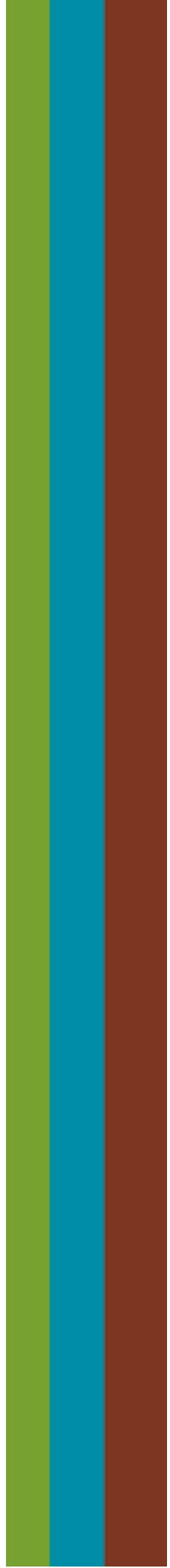
第 4 章: 発表スライド 1-51

第 5 章: 発表スライド 1-34

第 6 章: 発表スライド 1-45

PPTX 形式または PDF 形式の発表資料にアクセスするには以下をご参照ください。

<http://www.diinstitute.org/learning-center/deaf-interpreter-curriculum/>



第1編

スライド 1 - 6




ろう通訳カリキュラム

第1編：ろう通訳
過去、現在、未来

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第1編：ろう通訳—過去、現在、未来

各章のタイトルと順序

- ろう通訳の歴史的展開
- 基礎力、言語力、文化・コミュニケーション能力
- 通訳モデルと通訳方法
- 言語、文化、抑圧とろう社会のコミュニティ
- ろう通訳者からろうアドボケートか

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第1編：ろう通訳—過去、現在、未来

主要課題

- どのような知識やスキルが必要か？
- 通訳養成プログラムにある従来のカリキュラムに加えてなぜ特別なカリキュラムが必要なのか？
- ろう通訳者が必要または有用なのはどのような場合か？
- どうすれば、ろう通訳者に対する社会の認識を改善できるか？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第1章：ろう通訳の歴史的展開

ろう通訳の始まり

- ろう者が通訳者としての役割を果たすようになったのはいつからか？
- 初期のろう通訳者の役割や働きはどんなだったか？
- 調べよう：歴史的な転換期



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第1章：ろう通訳の歴史的展開

ろう通訳者：歴史の概要

- 1683年にイギリスの植民地だったニューイングランド地方でマシュー・プラットというろう者が、妻のサラ・プラットの清教徒への改宗の儀式の際、彼女の手話を読み取り、教会の長老たちのために文字として書き、長老たちの書いた文章を手話にするという方法で通訳した(Carty, Macready & Sayers, 2009)。
- Forestal (2011): 伝統的に、ろう者はろうコミュニティにおいてさまざまな翻訳や通訳をしてきた (Bauman, 2008; Stone, 2007)。しかしろう通訳者が通訳業界において正式に通訳として認められたのはごく最近のことである。ろう者に最適な情報アクセスを提供するために聴通訳者とともに仕事する役割であると認識するようになった (Langholtz, 2004)。

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第1章：ろう通訳の歴史的展開

ろう通訳者：歴史の概要

- 米国では大都市圏中心ではあるが、司法、医療、訓練・研修、会議、演劇、教育など、様々な場面でろう通訳者が活躍している。彼らは言語を変換する者として、音声言語や書記英語を、ASL・国際手話またはジェスチャー形式に置き換える仕事をしている。今では、ろう通訳者は、ろう者に通訳する場には必ず、またASL/英語の通訳が必要な場にもいるようになっている (Forestal, 2005)。
- ろう通訳には何世紀もの歴史がある。最古の手話の記録とされる紀元前427年—347年以來、ろう者は互いにまた他人のために、通訳してきた (Per Eriksson, *The History of Deaf People*)。

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers





第1編

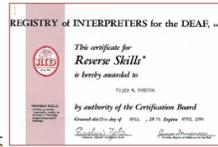
スライド 7 - 12



第1章:ろう通訳の歴史的展開

RID Reverse Skills Certificate (RSC=逆通訳資格)

- RSC認定資格は何年から何年まで与えられていたか?
- RSC認定通訳者の役割や仕事内容について述べよ。
- RSC認定資格を有する通訳者が通訳することは利用者にとってどのような効果があったか?
- RSC認定が廃止されるに至ったいきさつは?
- 米国のDeaf Caucus(デフ・コーカス)とはどのような団体か?
- かつてのリレー通訳と言われていた手法は現在なんと呼ばれているか?



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第1章:ろう通訳の歴史的展開

通訳資格化について: 歴史の概要

- RIDは1964年以來手話通訳者の全国試験と資格認定を実施してきた。1972年から1988年までRIDは逆通訳資格(RSC)認定を行った。その後は有資格ろう通訳者(CDI)の試験や資格認定を実施している。
- 1980年代から2000年半ばまでは、NAD(全米ろう協会)が手話通訳者の全国試験と資格認定を行っていた。1993年、RIDとNADは特別委員会を設け、その後両団体は新たな試験と認定制度を設け、合同で実施・運営することに合意した。
- 2005年に新しいNAD-RID全米通訳者資格認定(NIC)試験の実施が始まり、それに続いてNAD-RID専門職行動規範も新たに作られた。二つの団体は現在も協働している。

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第1章:ろう通訳の歴史的展開

RIDの実践の指針(SPP):有資格ろう通訳者(CDI)の利用

- SPPに記載されている以外にろう通訳者が行う職務に何かがあるか?
- SPPではろう通訳の利用をどのように推奨しているか?
- SPPの改善されるべき点は何か?



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第1章:ろう通訳の歴史的展開

RID CDI(RID有資格ろう通訳者)

- ろう通訳者/聴通訳者チームの利点は何か?
- CDIが通訳を担うことは、ろう、盲ろうの通訳利用者にとってどのように役立つか?
- ろう通訳者を目指す人、ろう通訳者として既に働いている人に必要な専門的訓練とは何か?
- ろう通訳者の役割や機能はどのような変化を遂げているか?
- ろう通訳者の専門性をさらに高め、専門職としての役割を拡大するにはどうすべきか?



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2章:基礎力、言語力、文化・コミュニケーション能力

主要課題

- ろう通訳者は自分自身について学ぶために、自分の成長期の経験をどう評価し活用するか?
- どのように基礎力はそれぞれのろう通訳者がろう通訳者として仕事ができるように準備するか?
- どのようなろう通訳のスキルが基礎力に支えられているか?



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2章:基礎力、言語力、文化・コミュニケーション能力

ろう通訳者

- 四つの重要なスキルとは何か?
- なぜ自分自身の偏見(バイアス)を分析することが大切なのか?
- どんな言語スキルが必要か?
- 様々なバイカルチュラル、バイリンガルの状況で無理なく自然でいられることがなぜ大切なのか?
- ろう通訳者の実践にとってどの分野がまず重要か?



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第1編



スライド 13 - 18



第2章:基礎力、言語力、文化・コミュニケーション能力

基礎力

- あなたは、どういう時にASLまたはその他の手話に接するか？
- ろう者の様々な形のコミュニケーションに接したこれまでの経験はどのようなものだったか？
- これらの経験は、ろう通訳者としてのあなたにどう影響したか？
- なぜ個人的に苦労した経験(状況の把握、通訳者、コミュニケーション方法に関してなど)の分析は重要なのか？
- 差別、抑圧という個人的な経験がろう通訳者としてのあなたにどう影響しているか、またはしうるか？

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2章:基礎力、言語力、文化・コミュニケーション能力

言語、文化的能力

- あなたのASLのスキルは? : どういうところがネイティブ、またはネイティブらしいか？
- 他にも流暢にできる手話があるか？
- ASLの語用論的および社会言語的な特性を自然に使えるか？
- ASLのレジスター、ジャンル、バリエーションを広い範囲にわたって巧みにかつ柔軟に通訳できるか？
- 上記の領域で能力をどう伸ばすか？

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2章:基礎力、言語力、文化・コミュニケーション能力

言語、文化的能力

- 付録にある、ASL、視覚的なジェスチャーコミュニケーション、ホームサインの評価水準について読む。
- ペアを組んで、生い立ちについて話し合い、そこで自身や相手の言語スキルを、評価水準を参考にし評価する。
- スキルの評価でわかったことについて話し合う。



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第3章:通訳モデルと通訳方法

通訳モデルの展開とろう通訳者への適用

- ヘルパー
- 案内人/機械
- 言語ファシリテーター
- パイリンガル・バイカルチュラル媒介者
- アライ (理解しあい、協働できる人)



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第3章:通訳モデルと通訳方法

ろう通訳者が最も多く使う方法は？

- 同時通訳
- 逐次通訳

様々な通訳プロセスのろう通訳者への適用？

- 通訳
- トランスリテレーション
- サイト(テキスト)トランスレーション
- ミラーリング(舞台通訳等で行われる)



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第4章:言語、文化、抑圧とろう社会

個人の経験:ろう通訳者の効果性や実践に影響する

- 差別
- 抑圧
- コミュニケーションアクセスの欠如

ろう通訳者は、通訳利用者の経験に同調してしまいやすいという過ちをどう調整できるか？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers





第1編

スライド 19



第5章:ろう通訳者か、アドボケイト(代弁者)か?

自己分析

- アドボカシー(理解し、権利を擁護する)とはどういう事か?
- ろう通訳者はアドボカシーも仕事に含めるか?
- あなたはろう通訳者になりたいか?それともアドボケイトになりたいか?
- あなたのろうコミュニティの中で役割はろう通訳者としての仕事にどう影響しうるか?

ad·vo·cacy ædvək
of support (to a cause)
her advocacy of women's work of an advo

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2編

スライド 1 - 6





ろう通訳カリキュラム

第2編：ろうコミュニティ内の 人種、文化の多様性

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2編:ろうコミュニティ内の人種、文化の多様性

各章のタイトルと順序

- 人種的文化的多様性
- 文化の違いについて調べる
- 偏見やステレオタイプについて調べる
- 移民と難民
- ろう通訳者として必要な知識とスキル

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers




第1章:人種的文化的多様性

主要課題

- 有色人種のろう者を支援するために設立された団体は、被支援者たちのニーズに対しどのように取り組んでいるか？どのようにしたら被支援者をさらに十分サポートできるか？
- 有色人種のろう者の支援団体はろう通訳者の仕事をサポートするために何が出来るか？
- 有色人種でないろう通訳者が、例えばNBDA（訳注：黒人ろう団体）やNCHDHH（訳注：ヒスパニックのろう難聴団体）のような団体に参加することで彼らの文化についてどのように知識を深めることができるか？
- 個々人がどんなステレオタイプも偏見も持たないというのは可能か？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers




第1章:人種的文化的多様性

グループ討論

- ろうコミュニティにはどんな民族文化があるか
- 有色人種のろう者を支援するためにどんな団体があるか？これらの団体は移民や難民特有の問題にどう取り組んでいるか？
- あなたはどの民族に属しているか？
- もし該当するのであれば、あなたは有色人種としてどんな経験をしてきたか？
- 自分とは違う人種のろう者の通訳をしたことがあるか？そうであれば、自分の経験をもとに、有色人種のろう者の通訳をするろう通訳者に参考になるような見解はあるか？

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers




第1章:人種的文化的多様性

団体について

- Concil de Manos（訳注：NCHDHHの現在名）
- Mano a Mano（訳注：英語、スペイン語、ASL3カ国語の通訳者団体）
- 全米黒人通訳者同盟
- 全米アジアろう会議
- 全米ろう協会
- 全米国人ろう支援団体
- RID（訳注：全米登録手話通訳者協会）
- Sacred Circle（訳注：宗教団体）



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers




第1章:人種的文化的多様性

団体について（続き）

- これらの団体は会員にどのような支援を行なっているか？
- 欠けているものは何か？
- あなたはこれらの団体のうちのどれかに属したいか？
- それはなぜか、また、そうでないならそれはなぜか？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers





第2編

スライド 7 - 12



第2章:文化の違いについて調べる

主要課題

- ろう通訳者にとって、文化の違う人の通訳をする前にその人たちの文化について理解することが大切なのはどうか？
- その人たちの文化圏以外のところで通訳する際、ろう通訳者にとって何が課題となるか？
- ろう通訳者は、自分と異なる人種、異なる文化の通訳利用者の信条や慣習を尊重しているということをどうやって示すか？
- ろう通訳者にとって、マイノリティグループの集団としての動き方やろうコミュニティ一般に対する抑圧の影響を理解することが重要なのはどうか？有色人種のろう者の場合はどうか？

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2章:文化の違いについて調べる

文化的要素の分析

- 言語的行動
- 非言語的動作
- 時間の認識
- 思考と認識のプロセス
- 宗教的あるいは精神的な帰属
- 慣習
- 優位な民族的アイデンティティ
- 意思決定と行動するときの態度



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2章:文化の違いについて調べる

言語的行動

- アクセント
- 方言
- 手話表現の選択



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2章:文化の違いについて調べる

非言語的動作

- 顔の表情
- ジェスチャー
- 空間の使用
- アイコンタクト



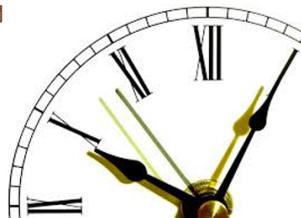
© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2章:文化の違いについて調べる

時間的認識

- ろう者の時間 vs. 聴者の時間
- 黒人の時間 vs. 白人の時間
- その他??



USA: 時間が走る
Latin America: 時間が歩く

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2章:文化の違いについて調べる

思考と認知のプロセス

- 具象 vs. 抽象
- 黒人と白人
- 線的 vs. 概念的、絵画的
- 社会的 vs. 孤立的、自立的



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2編



スライド 13 - 18

 第2章:文化の違いについて調べる

思考と認知のプロセス – 演習

まず初めに伝えること

- フィルターなし
- 選別なし
- 分析なし



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers 

 第2章:文化の違いについて調べる

宗教的あるいは精神的な帰属

- 信条
- 儀式
- 伝統



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers 

 第2章:文化の違いについて調べる

慣習

- 祝事
- 休日
- 式典



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers 

 第2章:文化の違いについて調べる

優位な民族的アイデンティティ

- 自分のアイデンティティを認識
- 出身国との関わり
- コミュニティ内での人種の重なり度合い
 - 二つの人種からなる
 - 二つ以上の人種からなる



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers 

 第2章:文化の違いについて調べる

意思決定と行動するときの態度

- 個人主義的な態度 (西洋文化)
 - 内的要因 vs 外的要因
- 集団的、共感的な態度 (非西洋文化)
 - 相互依存 vs 自立



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers 

 第2章:文化の違いについて調べる

文化的要素：グループ討論

- 学んだことは自分の文化とどう関連づけられるか？
- この情報を他の文化にどう関連づけられるか？
- この情報はなぜ通訳者にとって重要なのか？
- この情報はろう通訳者としての自分にどう役立つか？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers 



第2編

スライド 19 - 24

 第2章:文化の違いについて調べる

事例の分析

- 5件の事例から1件選択
- 通訳任務の方法
- 必要な資料
- デマンドコントロール・スキーマの引用
 - 通訳状況に影響しうる課題と行動
 - コミュニケーションの壁または人間関係での対立
 - 壁の緩和または対立の調停



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers 

 第2章:文化の違いについて調べる

デマンドコントロール・スキーマ

- デマンド
 - 現場の環境
 - 人間関係
 - パラ言語
 - 内的なもの
- コントロール
 - 任務前
 - 任務中
 - 任務後

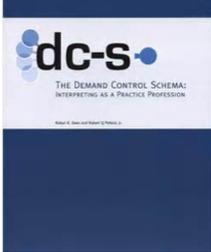


© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers 

 第2章:文化の違いについて調べる

デマンドコントロール・スキーマ (続き)

- 課題や行動の違いが通訳場面にどう影響するか
- コミュニケーションの壁または人間関係での対立
- コミュニケーションの壁を減らす、または対立をうまく扱う



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers 

 第2章:文化の違いについて調べる

グループ討論：ろう多文化の観点から

- それぞれの通訳任務において、通訳者はどのようなデマンドに直面したか？
- それに対し、どのコントロールを用いればよかったか？
- この活動から何を学んだか？
- ある任務を受けるか否かを決める時この活動がどう役に立つか？
- あなた、あるいはあなたが知っている人で、同じような経験をした人がいるか。いるならば、通訳をより効果的にするためにどの学習を利用できたか？

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers 

 第3章:偏見やステレオタイプについて調べる

主要課題

- 偏見やステレオタイプは何から生じるのか？
- 個人の偏見を知るのはなぜ重要なのか？
- 偏見やステレオタイプはどのように通訳プロセスに影響するのか？
- 偏見やステレオタイプ（自分のも他人のもの）が通訳に影響したり、妨げとなる時に、どのような方策が効果的か？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers 

 第3章:偏見やステレオタイプについて調べる

概念について

- 偏見 - 一方的、相手に有利な、または不利な偏見
- ステレオタイプ - 簡略化しすぎた、または標準化したイメージ、否定的
- 偏見はネガティブになりやすいか？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers 

第2編



スライド 25 - 30



第3章:偏見やステレオタイプについて調べる

グループ討論:「ろう」の再定義

- スチュアート・ホール (19:11-24:49)
- 相反するステレオタイプ (31:42-33:14)

専門用語

- 限られた情報一標準から抜け出せない
- 変化に対する無力さ



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第3章:偏見やステレオタイプについて調べる

グループ討論

- 抑圧をどう感じるか？
- 抑圧は他人にどう影響するか？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第3章:偏見やステレオタイプについて調べる

抑圧の性質

- 拒絶される
- 劣等感
- 特権、機会、サービスを否定される



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第3章:偏見やステレオタイプについて調べる

グループ討論: Muskogee Indian Donnette Reins (マスコギ・インディアンのドネット・レインズ)

<https://www.youtube.com/watch?v=BA0ZucY-oFs>

- 髪型やスタイル
- 黒い服
- トーテムポール



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第3章:偏見やステレオタイプについて調べる

グループ討論: あなたは白人特権主義、聴者特権主義、あるいは両方の被害者？

- 白人の優位とは？
- 聴者の優位とは？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第3章:偏見やステレオタイプについて調べる

グループ討論

- 抑圧の性質
- 特権の意味と影響
- 通訳場面にいる人たちの力関係とその場面におよぼす影響
- 通訳場面内の力関係における利用者の立場が通訳の決定や方略にどう影響するか



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers





第2編

スライド 31 - 36



第3章:偏見やステレオタイプについて調べる

立場の優劣確認について

- 何が起きたか？
- この作業をやってみてどう感じたか？
- この作業をしてあなたはどう考えたか？
- この作業から何を学び取ったか？
- ここで得た情報を今後どう活かせるか？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第3章:偏見やステレオタイプについて調べる

グループ討論

- あなたが通訳の仕事をもっと快適に、または最も快適にできないのは、どの民族文化・言語グループか
- 偏見やステレオタイプに関する個人的な経験について
- 人種または聴力による偏見やステレオタイプの克服について
- 偏見やステレオタイプを目撃した時どう行動するか
- 自分の偏見やステレオタイプを減らすにはどうするか

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第4章:移民と難民

主要課題

- 移民はろうコミュニティの多様性はどう寄与してきたか？
- 難民はろうコミュニティの多様性はどう寄与してきたか？
- 難民と移民の共通点は何か？
- 難民と移民の違いは何か？
- ろうや盲ろうの移民、難民を支援する団体があるとすれば、それはどの団体か？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第4章:移民と難民

グループ討論

- 米国では難民はどう見られているか？
- 上記の質問を念頭に置いて、米国人は移民または難民であろう者をどう見ているか？
- ろう通訳者として、移民または難民に対する個人的な見解を述べる。



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第4章:移民と難民

グループ討論

- 難民と移民で似ている部分は何か？
- 両者はどう違うか？
- このうちのどちらか、または両方のグループを相手に通訳した経験について述べる。



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第4章:移民と難民

グループ討論：講師の選定したビデオより

- あなたが考えたこと、感想は？
- 移民や難民が直面する独特の問題は、ろう者や盲ろう者が多数派の中で直面する問題と、どう違うのか？
- 支援が可能な団体やリソース（資源）は何か？
- 自分が持っている偏見やステレオタイプについてさらに自覚するようになったか？
- ろう通訳者として、自分が学んだことをどう適用するか？

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第2編



スライド 37 - 42



第5章:ろう通訳として必要な知識とスキル

主要課題

- ろうコミュニティにはどんな人種がいるか？
- ろう通訳者として、人種の違うろう者を相手にしたときどのような経験をしたか？
- その経験はろう通訳としての効果性にどう影響した/するか？
- ろう通訳者として、人種の違う通訳利用者を相手に通訳ができるような、どのような知識やスキルをあなたは持っているか？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第5章:ろう通訳として必要な知識とスキル

分野と技能

- 文化の違うろう者の通訳をするろう通訳者が使う分野や技能は何か？
- ろう通訳者の仕事の効果を上げるために役立つ技能は？
- これらはろう通訳者の実践にどう影響するか？

DIInstitute.org
Deaf Interpreting Institute

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第5章:ろう通訳として必要な知識とスキル

グループ討論：Muskogee Indian Donnette Reinsを見て

- ドネットにとっての優位の文化は何だったか？
- その文化は変わったか？そうならばどのように？
- あなたの手話とは違う手話が使われたがそれは何の手話か？
- 彼女のいる文化圏外ではその手話の使用は許されているか？それはなぜか？
- 彼女の手話/文化独特のジェスチャーを取り入れることは対話の助けとなるか？
- この演習はろう通訳者としてのあなたにどう役立つか？

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第5章:ろう通訳として必要な知識とスキル

グループ討論：講師が選定したビデオより

- 自分の文化とは異なる場面で通訳する場合、ろう通訳者はどんな課題や問題（デマンド）を認識するべきか？
- もしあったとすれば、ろう通訳者が犯した文化的言語的過ちは何だったか？
- 通訳利用者の国の手話を知る手話通訳者を利用すること（コントロール）は、どう役立つか？
- 文化的行事で効果的に通訳するためのロジスティックな考慮（コントロール）について説明する。

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第5章:ろう通訳として必要な知識とスキル

グループ討論：講師が選定したビデオより（続）

- あなたは他の手話ができるか、その文化について知識があるか？
- 自分にとって文化的言語的にも馴染みのある場以外で行われるイベントや集まりでの通訳を依頼された場合、あなたはどうか？どのような課題がありうるか。その課題に対してどのようなコントロールを使うことができるか？
- 人種的に異なる人たちを相手に通訳するのに役立つリソースとは何か？

© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers



第5章:ろう通訳として必要な知識とスキル

グループ討論：L.G.Peterkinの Reflection on Cultural & Religious Diversity

- 通訳利用者に通訳をする際、リアンが行った文化的調整とは何か？
- この人種集団を相手にしたりリアンの通訳で役立った、彼女の言語外知識（ELK）とは何か？
- 自分の属する人種内、あるいはそれ以外の集団の両方で通訳する時に、あなたはどのような調整ができるか？



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers





第2編

スライド 43



第5章:ろう通訳として必要な知識 とスキル

グループ討論

- 付録Bの5つの事例ワークシートを使って、様々な通訳利用者に通訳するための方略について話し合う
 - 言語的課題
 - 対人関係や内面上の課題
 - 通訳の方略と根拠
 - その他考慮に入れるべきこと



© 2015 Digital Edition • Deaf Interpreter Curriculum • National Consortium of Interpreter Education Centers

